

唐津・鎮西ウィンドファーム（仮称）設置計画に係る
環 境 影 響 評 価 準 備 書
補 足 説 明 資 料

令和元年 8 月

九電みらいエナジー株式会社

風力部会 補足説明資料 目次

1. 系統連系について【河野部会長】	4
2. 図面の書式について【河野部会長】	4
3. 風力発電機間の離隔距離について【河野部会長】	4
4. 変電所の位置について【山本顧問】	4
5. 緑化計画について【河野部会長】	4
6. 工事用車両の走行ルートについて【近藤顧問】	5
7. 樹木の伐採について【河野部会長】【山本顧問】	6
8. 風力発電機の純音性成分について【河野部会長】	6
9. 風力発電機のFFT分析図について【山本顧問】	7
10. 周辺の他事業について【河野部会長】	7
11. 現存植生図（文献）の調査年度について【河野部会長】	9
12. 土地利用状況について【山本顧問】（非公開）	9
13. 風力発電機と住居の離隔距離について【河野部会長】【山本顧問】	12
14. 騒音等の調査地点と風力発電機の距離【山本顧問】	13
15. 風車の影の予測手法について【河野部会長】	14
16. 積替場の二酸化窒素の短期予測について【近藤顧問】（一部非公開）	15
17. 窒素酸化物の現地観測期間の妥当性について（工事用資材等の搬出入）【近藤顧問】	17
18. 窒素酸化物の現地観測期間の妥当性について（建設機械の稼働）【近藤顧問】	20
19. ため池の予測条件で6時間の積算雨量を用いた理由について【水鳥顧問】	22
20. 鳥類の定量調査について【河野部会長】	23
21. 植物の重要種の保全措置について【河野部会長】	24
22. 生態系の予測評価について【河野部会長】	25
23. サシバへの影響について【河野部会長】	26

【説明済み資料】

24. 大気質、騒音及び超低周波音、振動の調査地点について（一部非公開）	27
25. ブラウン-ブランケ法による調査結果について、植生調査票、群落組成表を 作成しているか。	43
26. 植生自然度が高い場所については、植生断面図が作成、記載されているか。	44
27. 植物目録を作成する際に準拠した目録・根拠について	48
28. 植物の移植先の植生調査等を実施しているか。また、必要に応じ移植後の 事後調査が計画されているか。	49

別添資料：植生調査票

1. 系統連系について【河野部会長】

系統連系についての現況を説明願います。

(回答)

九州電力株式会社からの系統容量確保については、受給最大電力 27,200kW の接続契約が 2017 年 3 月 31 日に成立していることから、27,200kW の系統容量を 2017 年 3 月 31 日に確保済みです。

2. 図面の書式について【河野部会長】

p.8/10～ 図中に縮尺を追記すること。また、p.10 については航空写真についても 2.5 万分の 1 の図を追加願います。

(回答)

準備書中の図面には縮尺を入れることとし、評価書において適切に修正します。また準備書 P10 「第 2.2-4 図 風力発電機の配置計画」については、衛星写真を背景とする図面を追加することとします。

3. 風力発電機間の離隔距離について【河野部会長】

風車間の離隔距離が短いようですが？

(回答)

風力発電機の配置について、風況が良い場所を選定するとともに、民家との離隔、耕作放棄地、地権者との調整、景観、他事業者との離隔等を考慮し検討しました。

4. 変電所の位置について【山本顧問】

P.10 の風力発電機の配置図内に変電所が設置される場合はその位置を記入してください（民家との位置関係を調べるため）。

(回答)

変電所は、準備書 P10 「第 2.2-4 図 風力発電機の配置計画」の範囲外に設置する予定としています。

5. 緑化計画について【河野部会長】

種子吹付等による緑化を実施と記載されているが、具体的な内容について記載が必要と考えます。

(回答)

緑化にあたっては、対象事業実施区域周辺で確認される種を用いることとし、乾燥に強いススキ等の草本種を考えていますが、種苗メーカーにおける在庫等を確認したうえで決定します。また、外来種混入防止のために、種子の産地確認を行うこととし、海外等で採取された種子ではないことを確認した上で緑化に使用することとします。

6. 工事用車両の走行ルートについて【近藤顧問】

23 頁 工事用資材の具体的輸送ルートについては対象事業実施区域近傍のほかはその始点を含む広域の図も作成してください。

(回答)

工事用資材等の主要な輸送経路の始点としては、生コンクリートのプラントがありますが、図1に示すプラントを予定しています。

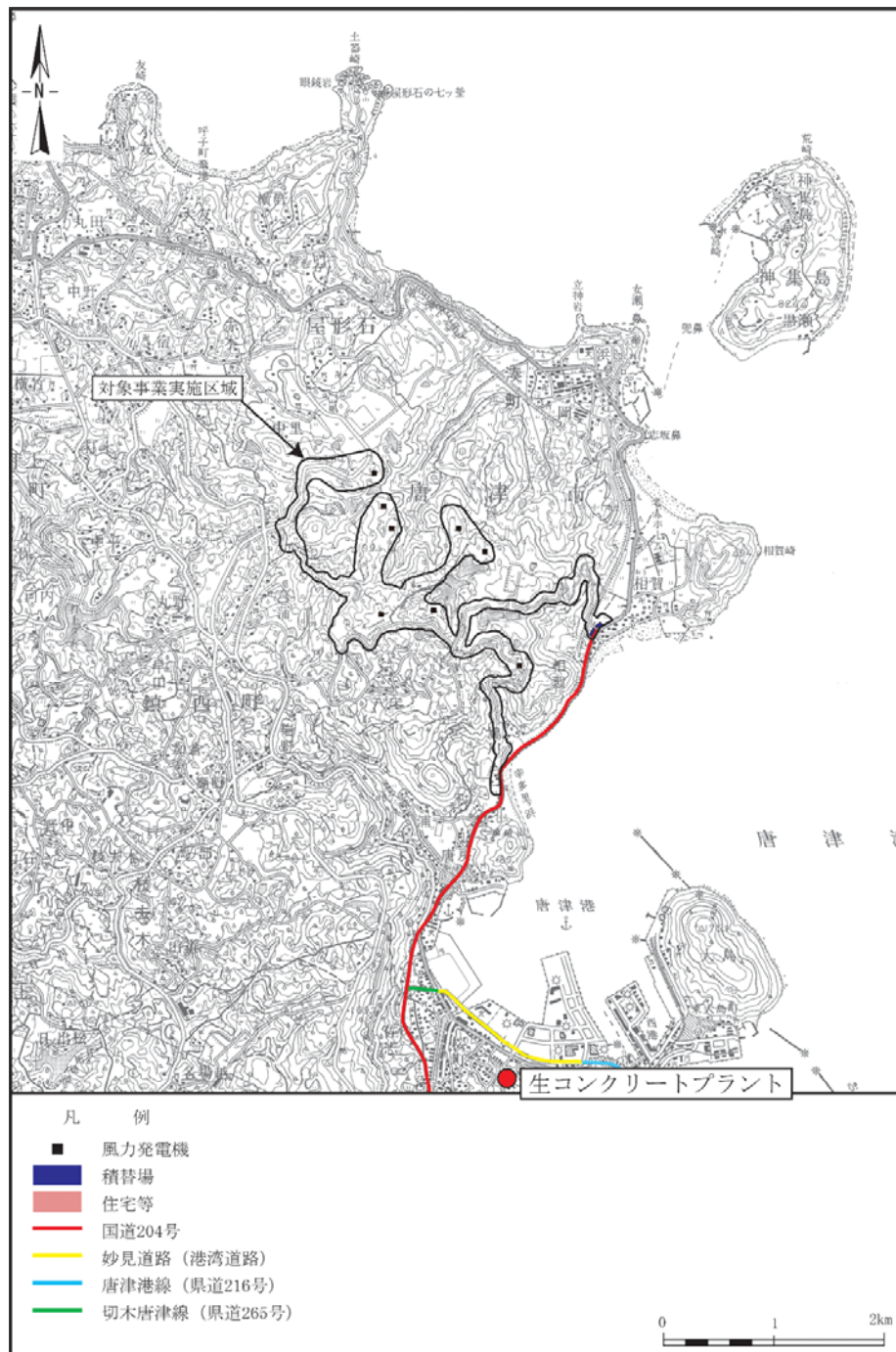


図1 生コンクリートプラントの位置

「唐津・鎮西ウィンドファーム(仮称)設置計画に係る環境影響評価準備書」(平成31年、九電みらいエナジー株式会社)
[承認番号 平30情複、第952号]より作成

7. 樹木の伐採について

面積が示されているが、伐採量とその内訳を提示願います。p. 28 の表中の木くず量との関係がわかるように記載する必要があります。【河野部会長】

伐採木は現場で破碎機によってチップ化するのか、それとも木材のまま廃棄物として事業実施区域外に搬出するのか？ 有効利用の方法も記述してください。【山本顧問】

(回答)

樹木の伐採範囲は、準備書 P26、27 の通り 12.7ha を予定しています。主に伐採する樹種は、スギ・ヒノキであり、単位面積当りの立積と比重から伐採重量を算出しています。準備書 P28 の木くずの内訳ですが、下表のとおりです。

伐採木	2,857 t
型枠材	35 t
梱包用角材他	8 t
合計	2,900 t

伐採木等の木くずは、燃料として有効利用するため、対象事業実施区域外のチップ化工場にてチップ材へ加工する予定です。有効利用できない樹根及び枝葉は、廃棄物として搬出し、産業廃棄物処理会社に委託し適正に処分する予定です。

8. 風力発電機の純音性成分について【河野部会長】

評価の対象となる明確な純音性成分は確認されない、と記載されているが、この記載は適切ではないと考えます。騒音関係の顧問の意見を参考に見直しが必要と考えます。

(回答)

騒音関係の顧問の意見等を参考にして、記載の見直しを検討します。

9. 風力発電機のFFT分析図について (p. 32, p33) 【山本顧問】

p. 32の図：縦軸Sound Pressure Lp (dB re 20 mPa)と書かれているが、音圧レベルの基準音圧は20mPaではなく20μPaである。

p. 33の図：縦軸の0dB位置（基準音圧20mPaと書かれている）は、音圧レベル（基準音圧20μPa）の何dBに該当するのか？ なお、音圧レベルにA特性補正がかかっている場合は（データがそのように見える）、A-weighted sound pressure level (dB)と記入すること。また、相対値で表現する場合は、Relative A-weighted . . . 。

(回答)

p. 32 の図：縦軸の音圧レベルの基準音圧はご指摘のとおり 20mPa ではなく 20μPa です。評価書で修正します。

p. 33 の図：縦軸の 0dB 位置は、音圧レベル（基準音圧 20μPa）の 0dB に該当します。音圧レベルに A 特性補正がかかっていますので、評価書で縦軸のタイトルを A-weighted sound pressure level (dB)と記入します。

10. 周辺の他事業について【河野部会長】

p. 35 周辺の他事業については 20 万分の 1 図に入る範囲の計画中のものもふくめて追加/記載をお願いします。

(回答)

周辺の他事業者（風力発電）の位置について、「日本における風量発電設備・導入実績」（2017 年度版、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）及び至近の風力発電アセスメント事例から得られた情報は、図 2 のとおりです。

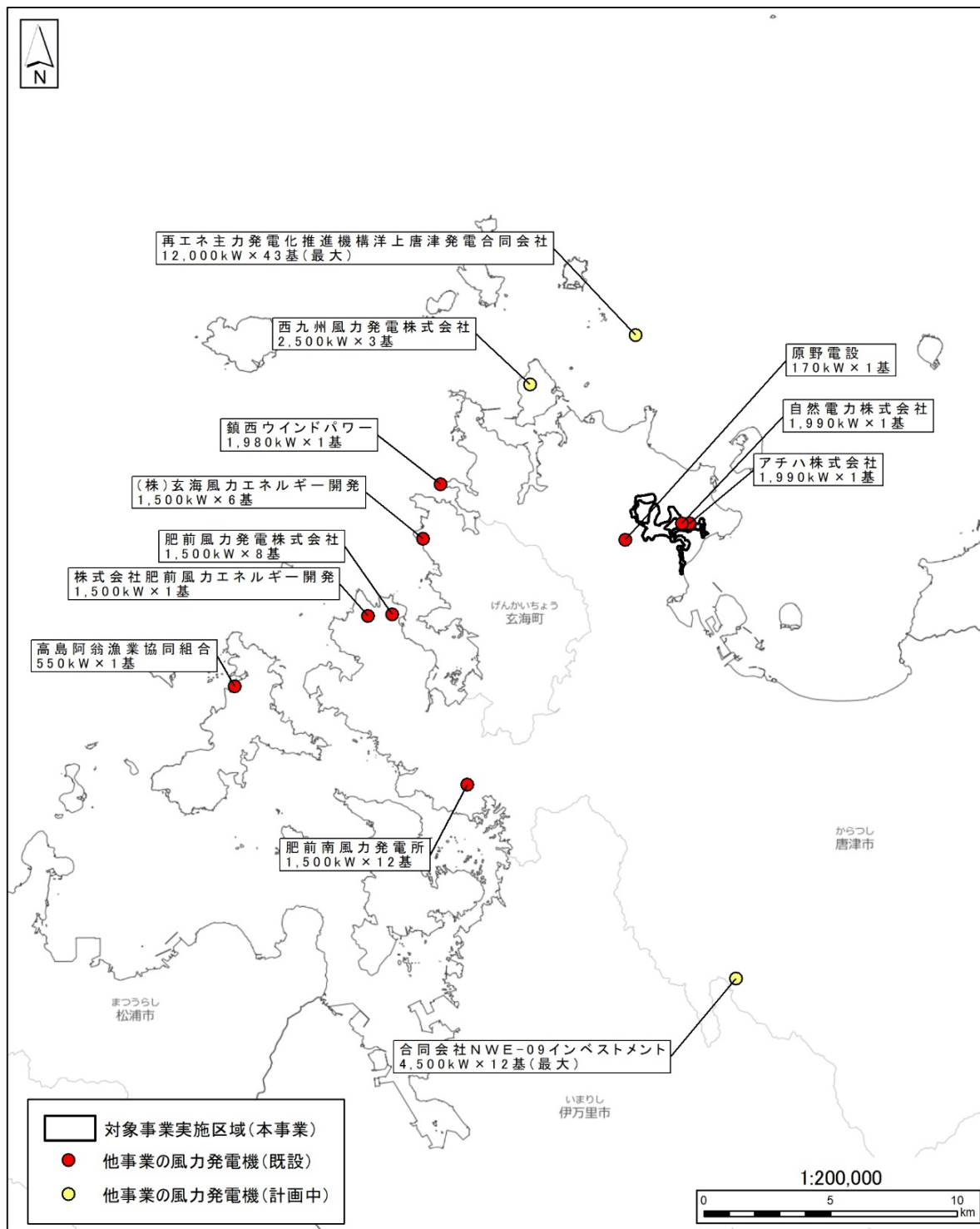


図2 周辺他事業者(風力発電)の位置

11. 現存植生図（文献）の調査年度について【河野部会長】

p. 69 現存植生図の調査年度を追記願います。

（回答）

「自然環境保全基礎調査 植生調査情報提供」（環境省 HP、平成 30 年 10 月閲覧）によると、対象事業実施区域及びその周辺の現存植生図の調査年度は 2015 年度となっています。評価書においては、調査年度を追記することとします。

12. 土地利用状況について（p. 91）【山本顧問】（非公開）

国土利用計画における都市地域の指定の有無、および都市計画用途地域の指定の有無が記載されていない。指定がある場合は指定図を示してください。

（回答）

対象事業実施区域及びその周辺の国土利用計画における都市地域の指定状況は図 3、都市計画用途地域の指定状況は図 4 のとおりです。

※本図面は、複製に関する国土地理院長の許諾が得られていないため、非公開とします。

非公開

「唐津市都市計画図」（唐津市HP、令和元年８月閲覧）より作成

図３ 都市地域の指定状況

非公開

「唐津市都市計画総括図」（唐津市HP、令和元年8月閲覧）より作成

図4 都市計画用途地域の指定状況

13. 風力発電機と住居の離隔距離について

p. 98 風車と住居の離隔距離を追記願います。【河野部会長】

p. 97に文章で記載されている近接の施設と住居について、p. 98の地図上のどこに位置しているかを示し、距離も記載してください。【山本顧問】

(回答)

準備書 P97 に記載している近接の施設と住居の位置及び風力発電機との距離（水平距離）は、図5に示すとおりです。

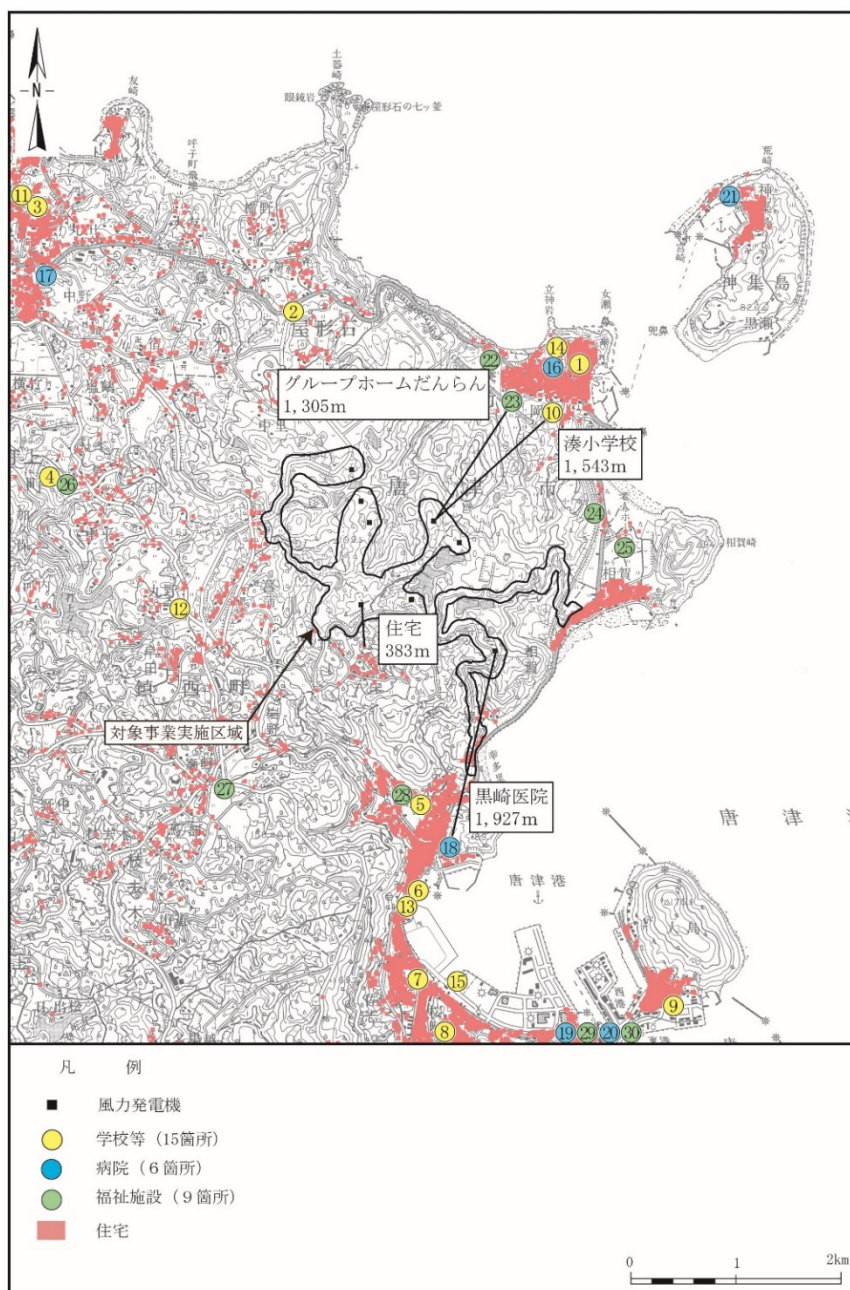


図5 近接の施設と住居の位置及び風力発電機との距離（水平距離）

「唐津・鎮西ウィンドファーム(仮称)設置計画に係る環境影響評価準備書」（平成31年、九電みらいエナジー株式会社）
[承認番号 平30情複、第952号]より作成

14. 騒音等の調査地点と風力発電機の距離 (p. 255) 【山本顧問】

騒音・振動・超低周波音の調査地点と、最近接風力発電機の位置及び距離を図に記入してください。

(回答)

騒音・振動・超低周波音の調査地点と、最近接風力発電機の位置及び距離は、図6のとおりです。

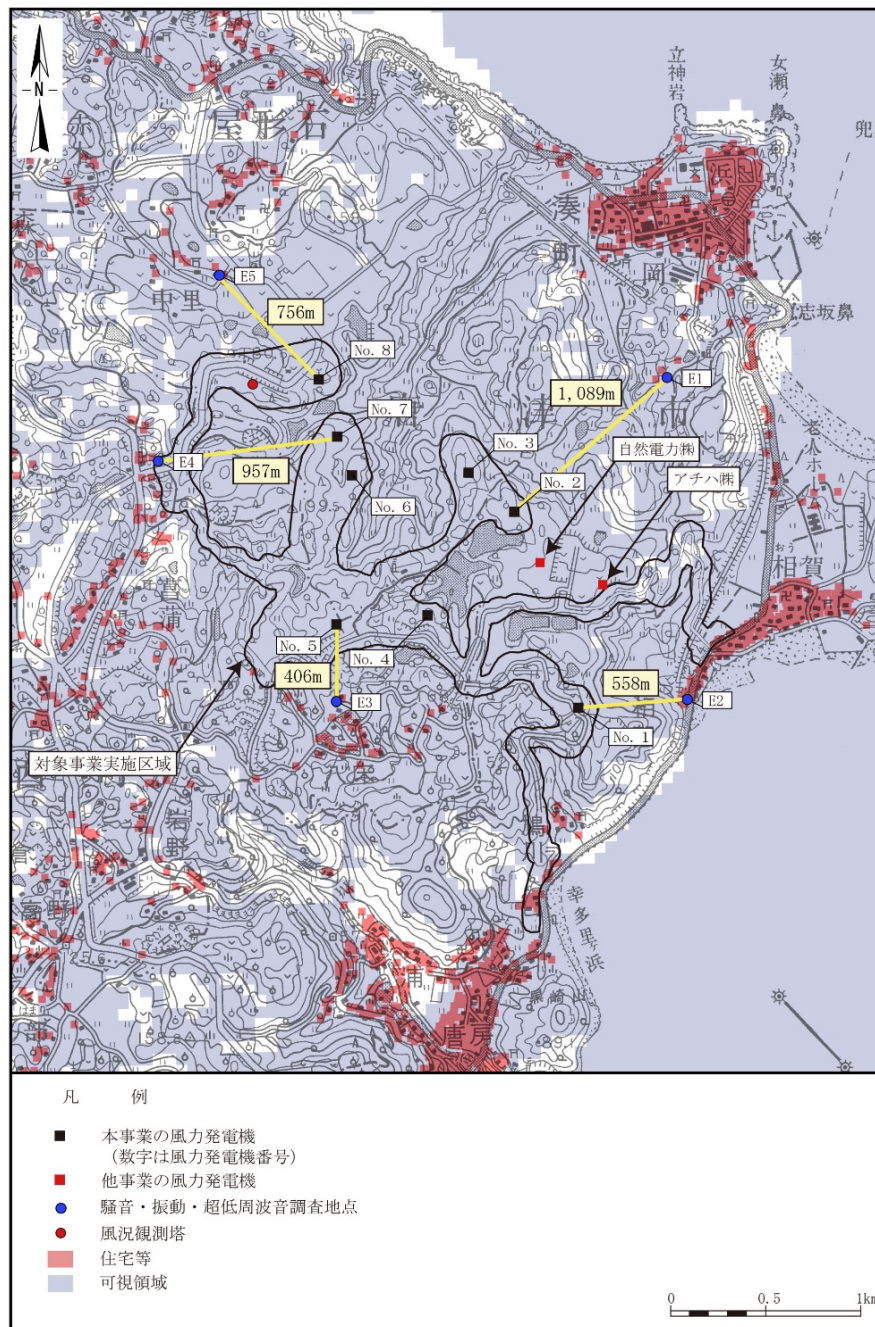


図6 騒音・振動・超低周波音の調査地点と最近接風力発電機の位置

「唐津・鎮西ウィンドファーム(仮称)設置計画に係る環境影響評価準備書」(平成31年、九電みらいエナジー株式会社)
[承認番号 平30情複、第952号]より作成

15. 風車の影の予測手法について【河野部会長】

p. 260 予測対象時期と評価の手法の記載を適切に修正願います。

(回答)

評価書において、以下のとおり、修正します。

修正前	修正後
8 予測対象時期等 発電所の運転が定常状態となる時期とした。	8 予測対象時期等 発電所の運転が定常状態となる時期とした。 なお、予測は、年間、冬至、夏至及び春分・秋分とした。
9 評価の手法 調査及び予測の結果を基に、以下により評価を行った。 ・風車の影に係る環境影響が、実行可能な範囲で回避又は低減されているかを検討し、環境の保全についての配慮が適正になされているかを検討した。	9 評価の手法 調査及び予測の結果を基に、以下により評価を行った。 ・風車の影に係る環境影響が、実行可能な範囲で回避又は低減されているかを検討し、環境の保全についての配慮が適正になされているかを検討した。 ・国内には風車の影に関する目標値や指針値等がないことから、ドイツにおける指針値（「実際の気象条件等を考慮しない場合、年間 30 時間かつ 1 日最大 30 分を超えない」、「実際の気象条件を考慮する場合、年間 8 時間を超えない」）を参考に、環境影響を回避又は低減するための環境保全措置の検討がなされているかを評価した。

16. 積替場の二酸化窒素の短期予測について【近藤顧問】（一部非公開）

14 頁を見ると転回場・積み替え場の位置が民家に近いところに計画されています。この地点は造成があるのでしょうか。造成がある場合および積み替えについては直近の民家に対して二酸化窒素の短期予測（1 時間値）を安定度 D, 風速 1m/s で行って（風は発生源から民家の方向に向かうとする）、指針値との比較をしてください。周辺民家が 2 階建てであれば地上高 3m くらいでも評価をしてください。

（回答）

積替場において切土は発生しませんが、耕作地にビニールシートを敷設し、その上に土嚢（別の工事箇所が発生した土砂を詰めたもの）を積み上げる作業が発生します。土嚢を使うのは、積替場として土地を借用した後に、農地へ原形復旧を行うためです。

積替場の位置及び近傍民家については図 7 のとおりです。積替場の近傍民家における影響を以下のとおり予測いたしました。

非公開

図 7 積替場拡大図

※本図面は、個人の住宅が特定されるため、非公開とします。

【予測条件】

①排ガス

造成及び積替に用いる建設機械は以下のとおりとし、建設機械から発生する窒素酸化物の建設機械の排出係数原単位は「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所、平成 25 年）に示されている方法により算定しました。

○造成時

- ・ バックホウ 0.45m³ 定格出力 73 (kW)、燃料消費率 0.153 (L/kWh)
⇒ 排出原単位 242 (g/h)
- ・ 振動ローラー10t 定格出力 124 (kW)、燃料消費率 0.160 (L/kWh)
⇒ 排出原単位 339 (g/h)
- ・ モーターグレーダー3.1m 定格出力 163 (kW)、燃料消費率 0.108 (L/kWh)
⇒ 排出原単位 326 (g/h)
- ・ ダンプトラック 4 t 定格出力 154 (kW)、燃料消費率 0.043 (L/kWh)
⇒ 排出原単位 134 (g/h)

○積替時

- ・ オールテレーンクレーン 360t 定格出力 194 (kW)、燃料消費率 0.044 (L/kWh)
⇒ 排出原単位 191 (g/h)

②排出源の高さ

排出源の高さは、排気管の高さに排気上昇高さを加えたものとして、次式より設定しました。

$$H = H_0 + \Delta H$$

ここで、H : 排出源の高さ (m)

H₀ : 排気管の高さ (m)

ΔH : 排気上昇高さ (m)

排気管高さH₀ は3 m。排気上昇高さΔHは、「建設工事に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測手法について」(土木技術資料 42-1(2000))より6 mとしました。よって、排出源の高さHは9 mとしました。

③大気安定度

Dとしました。

④風速

1 m/s としました。

【予測地点】

図7に示す近隣民家1地点としました。

【予測結果】

予測結果を表1～2に示します。

造成時は、建設機械の同時稼働はないので、最も寄与の大きい値を予測結果としました。

造成時の二酸化窒素の1時間値は、最大で地上1.5mで0.004ppm、地上3.5mで0.033ppm、

積替時の二酸化窒素の1時間値は、地上1.5mで0.011ppm、地上3.5mで0.032ppmでした。

表 1 積替場周辺（造成時）の近隣民家での予測結果

予測時期	建設機械	予測地点までの距離（m）	予測結果（ppm）	
			地上 1.5m	地上 3.5m
造成時	バックホウ 0.45m ³	45	0.003	0.024
	振動ローラー10 t 級		0.004	0.033
	モーターグレーダー3.1m		0.004	0.032
	ダンプトラック 4 t		0.001	0.013

表 2 積替場周辺（積替時）の近隣民家での予測結果

予測時期	建設機械	予測地点までの距離（m）	予測結果（ppm）	
			地上 1.5m	地上 3.5m
積替時	オールテレーンクレーン 360 t	66	0.011	0.032

建設機械の稼働（積替場）による二酸化窒素の 1 時間値については、環境基準や環境目標値の設定はありませんが、中央公害対策審議会の専門委員会による指針値¹である「短期暴露については 1 時間暴露として 0.1～0.2ppm」が示されており、この範囲以下でした。

¹ 「中央公害対策審議会の専門委員会による指針値」：中央公害対策審議会大気部会に設置された「二酸化窒素に係る判定条件等専門委員会」により、昭和 53 年 3 月 20 日付けの報告書にて提案された指針値。

17. 窒素酸化物の現地観測期間の妥当性について（工事用資材等の搬出入）【近藤顧問】

337 頁 窒素酸化物の現地観測は各季節 1 週間しか行っていないので、現地観測の期間中にこの地域で考慮すべき高濃度が出現しているのかわかりません。従って唐津局のデータを解析することにより現地観測期間中に選出された日が周辺地域の年間を通した高濃度日の条件として適切であったかどうかを確認してください。

（回答）

(1) 一般大気測定局（唐津）における比較

気象・窒素酸化物の現地調査（沿道）は、年間 28 日間（四季各 7 日間）であることから、近隣の一般大気測定局（唐津）における年間及び現地調査期間（28 日間）の二酸化窒素の値を整理し、比較を行いました。年間の平均値は 28 日間の平均値に比べ、やや大きくなっています。

表 3 より、年間の日平均値の 98% 値（0.010ppm）は、現地調査期間（28 日間）の日平均値の最高値（0.008ppm）とほぼ同程度であることから、現地観測期間中に選出された日が周辺地域の年間を通した高濃度日の条件として妥当であったと判断しています。

表 3 一般大気測定局（唐津）における二酸化窒素の統計結果

項 目	年間（平成 29 年度）	現地調査期間（28 日）
平均値 (ppm)	0.005	0.004
日平均値の最高値 (ppm)	0.012	0.008
日平均値の 98% 値 (ppm)	0.010	0.008

(2) 一般大気測定局（唐津）と現地調査との比較

気象・窒素酸化物の現地調査（沿道）は、年間 28 日間（四季各 7 日間）であることから、近隣の一般大気測定局（唐津）の窒素酸化物濃度データと現地大気質調査地点（沿道）の窒素酸化物濃度データの相関を確認し、一般大気測定局（唐津）の年間データを用いて現地大気質調査地点（沿道）における 1 年間の年平均値、日平均値の最高値等を推定しました。

一般大気測定局（唐津）と現地大気質調査地点（沿道）の二酸化窒素の日平均値の相関は以下のとおりです。

相関係数：0.75

回帰式 $Y=0.837838 \times X+0.001363$

X: 唐津測定局の二酸化窒素濃度 (ppm)

Y: 現地の二酸化窒素 (ppm)

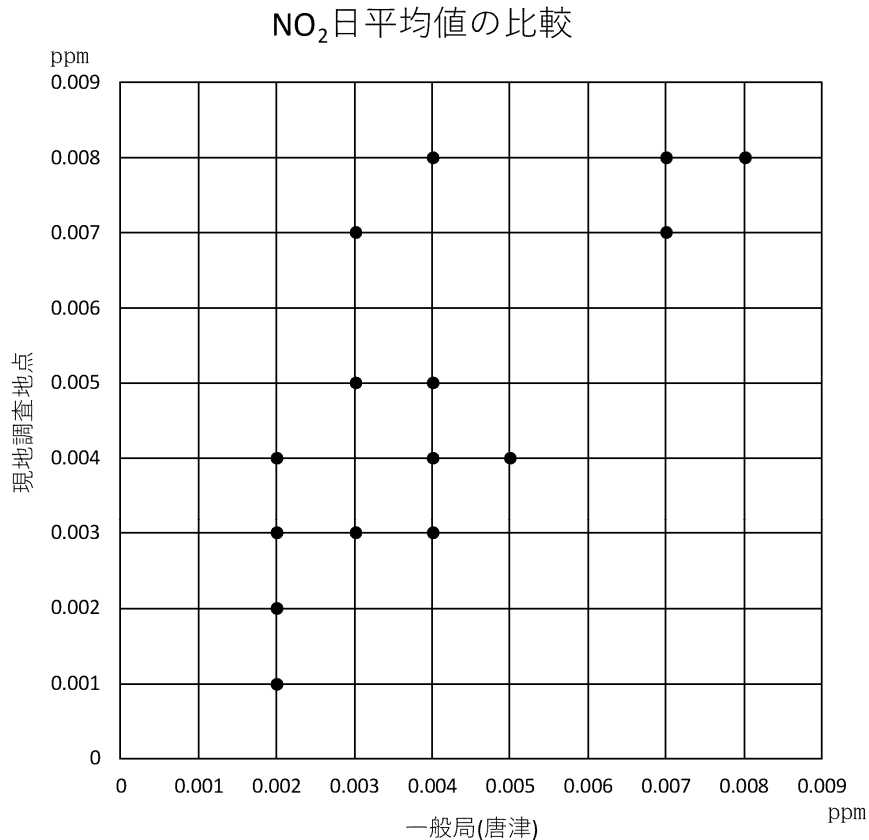


図8 一般大気測定局（唐津）と現地大気質調査地点（沿道）の二酸化窒素測定値（日平均値）の比較

一般大気測定局（唐津）の二酸化窒素（日平均値）から回帰式を用い、現地大気質調査地点（沿道）での二酸化窒素（日平均値）を1年分推定し、その結果から年平均値と日平均値の最高値等を推定しました。結果は以下のとおりです。

- ・推定した現地大気質調査地点（沿道）の年平均値：0.005ppm
- ・推定した現地大気質調査地点（沿道）の日平均値の最高値：0.011ppm
- ・推定した現地大気質調査地点（沿道）の日平均値の年間98%値：0.010ppm

一方、現地大気質調査地点（沿道）での測定値（二酸化窒素の日平均値 28 日分）の平均値は、0.005ppm、日平均値の最高値は0.008ppmです。

1年間のデータ（一般大気測定局：唐津）から推定した現地大気質調査地点（沿道）の年平均値と現地大気質調査地点（沿道）での各季節1週間のデータから求めた年平均値は同じ値(0.005ppm)でした。

また、1年間のデータ（一般大気測定局：唐津）から推定した現地大気質調査地点（沿道）の日平均値の年間98%値（0.010ppm）と現地大気質調査地点（沿道）での各季節1週間のデータから求めた日平均値の最高値（0.008ppm）もほぼ同程度あったことから、現地観測期間中に選出された日が周辺地域の年間を通した高濃度日の条件として妥当であったと判断しています。

18. 窒素酸化物の現地観測期間の妥当性について（建設機械の稼働）【近藤顧問】

350 頁 同様に各季節で設定した日が各季節の高濃度日として選択するのに適切であったかどうかの確認を行ってください。

（回答）

(1) 一般大気測定局（唐津）と現地調査との比較

気象・窒素酸化物の現地調査（一般）は、年間 28 日間（四季各 7 日間）であることから、近隣の一般大気測定局（唐津）の窒素酸化物濃度データと現地大気質調査地点（一般）の窒素酸化物濃度データの相関を確認し、一般大気測定局（唐津）の年間データを用いて現地大気質調査地点（一般）における 1 年間の年平均値、日平均値の最高値等を推定しました。

一般大気測定局（唐津）と現地大気質調査地点（一般）の二酸化窒素の日平均値の相関は以下のとおりです。

相関係数：0.82

回帰式 $Y=0.648649 \times X+0.000084$

X: 唐津測定局の二酸化窒素濃度 (ppm)

Y: 現地の二酸化窒素 (ppm)

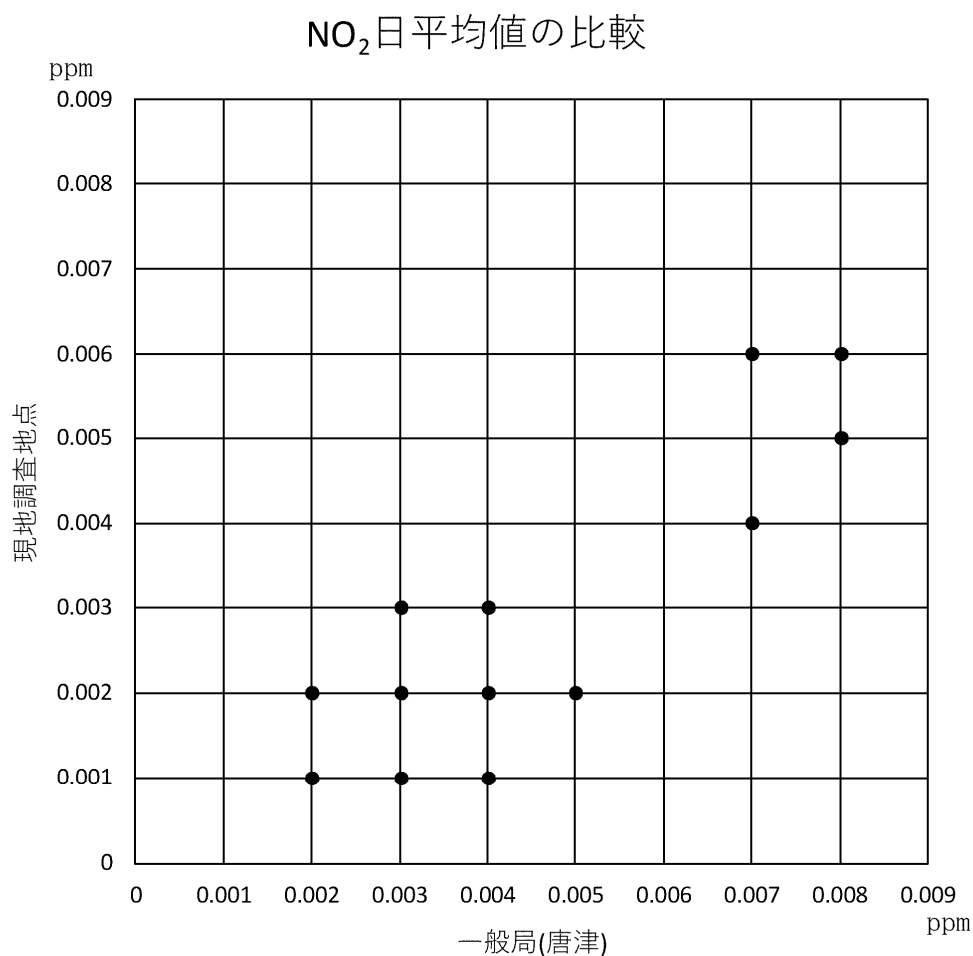


図9 一般大気測定局（唐津）と現地大気質調査地点（一般）の二酸化窒素測定値(日平均値)の比較

一般大気測定局（唐津）の二酸化窒素（日平均値）から回帰式を用い、現地大気質調査地点（一般）での二酸化窒素（日平均値）を1年分推定し、その結果から年平均値と日平均値の最高値等を推定しました。結果は以下のとおりです。

- ・推定した現地大気質調査地点（一般）の年平均値：0.003ppm
- ・推定した現地大気質調査地点（一般）の日平均値の最高値：0.008ppm
- ・推定した現地大気質調査地点（一般）の日平均値の年間98%値：0.007ppm

一方、現地大気質調査地点（一般）での測定値（二酸化窒素の日平均値 28 日分）の平均値は、0.003ppm、日平均値の最高値は0.006ppmです。

1年間のデータ（一般大気測定局：唐津）から推定した現地大気質調査地点（一般）の年平均値と現地大気質調査地点（一般）での各季節1週間のデータから求めた年平均値は同じ値(0.003ppm)でした。

また、1年間のデータ（一般大気測定局：唐津）から推定した現地大気質調査地点（一般）の日平均値の年間98%値（0.007ppm）と現地大気質調査地点（一般）での各季節1週間のデータから求めた日平均値の最高値（0.006ppm）もほぼ同程度あったことから、現地観測期間中に選出された日が周辺地域の年間を通した高濃度日の条件として妥当であったと判断しています。

19. ため池の予測条件で6時間の積算雨量を用いた理由について【水鳥顧問】

P536 および P537 ため池の予測条件で 6 時間の積算雨量を用いた理由を説明してください。

(回答)

河川・水路の水の濁りの予測に用いる局所的な強雨の降雨条件は、準備書P537の「(b) 予測条件 i. 降雨条件」に記載したとおり、唐津市における大雨洪水注意報の発令基準となる50mm/hを設定しました。

ため池の局所的な降雨量を決定した根拠は次のとおりです。

- (1) ため池の場合は、降雨による濁水が池内に流入するに従って、浮遊物質量が高くなることから、ため池の予測評価に当たっては、ある一定の降雨量が数時間継続すると仮定しました。
- (2) 河川・水路の水の濁りの予測に用いる局所的な強雨の降雨条件は、唐津市における大雨洪水注意報の発令基準となる50mm/hを設定しましたが、この降雨条件は唐津市の2年確率の降雨量に相当する雨量であることから、ため池の水の濁りの予測に用いる局所的な強雨の降雨条件は、日降雨量の2年確率の値である136mm/dを用いて評価することとしました。
- (3) 対象事業実施区域周辺の過去10年間の降雨のうち日雨量が130mm以上降った時の降雨量を調べた結果、最も短い時間で130mmを超えたのが6時間であったことから、降雨時間を6時間としました。
- (4) 以上のことから、ため池の局所的な降雨量は、準備書P537「(b) 予測条件 i. 降雨条件」に記載したとおり、136mm/dが6時間で降る(22.7mm/h × 6h)と想定しました。

20. 鳥類の定量調査について【河野部会長】

ラインセンサス、ポイントセンサス、スポットセンサスの調査結果が提示されていますが、それぞれの調査点を選定した理由に基づいた解析を実施したのか、結果を提示しない理由を説明願います。現状は任意踏査結果と何がどう違うのかも述べられていません。そもそもセンサス調査を実施する必要性はどこにあるのか、何のために実施した結果なのか再考願います。

(回答)

方法書審査時の指摘を受けて、ラインセンサス及びポイントセンサスは相調査としての位置づけで調査を行っており、調査結果は任意踏査結果とともに鳥類相リストに整理しています。

スポットセンサスについても、方法書審査時の指摘を受けて、風力発電機建設前後における鳥類相の変化を定量的に把握する場合の対応として行ったもので、風力発電機設置予定地点及び風力発電機設置の影響が間接的に及ぶ可能性のある緩衝域の定量データを把握するために、風車のロータ直径（約 100m）及びその周囲（片側約 200m）を含む直径 500m を調査範囲とし、1 基の風力発電設備について、風力発電機設置予定地点から半径 50m の範囲内に 1 地点、風力発電機設置予定地点より 50～250m の帯域に 1 地点、合計 16 地点（風力発電機設置予定地点 8 地点）で調査を行いました（図 10 参照）。スポットセンサスの調査結果は、準備書では鳥類相調査結果に含めて整理し、重要種に対する風力発電所の影響の程度について予測しています。

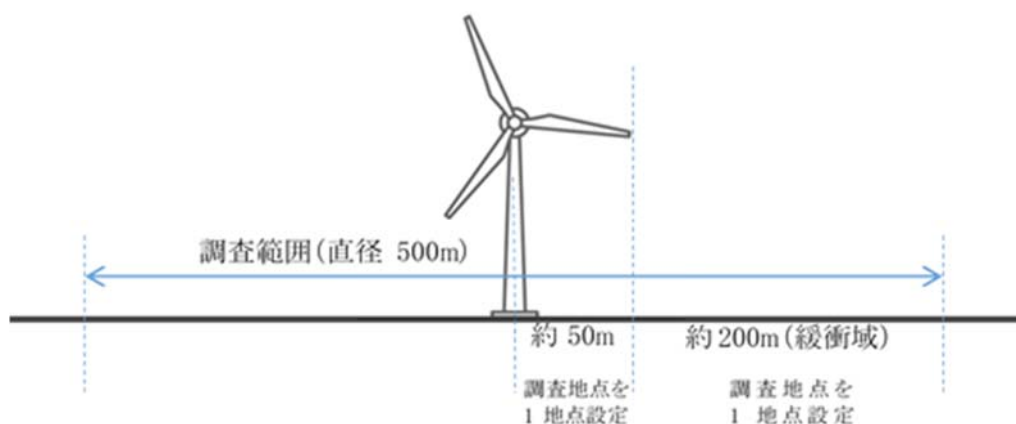


図 10 スポットセンサスの地点設定方法

21. 植物の重要種の保全措置について【河野部会長】

重要種を移植することから生育への影響は小さいと予測しているが、事後調査報告書の例では移植個体の生存率が低いことが報告されている例もあることから、事前に適切な移植方法の検討、事後調査による経過観察・報告が必要と考えます。

(回答)

移植による植物の保全措置については、植物に係る専門家へのヒアリング内容（準備書 P955）や対象種の移植等に関する知見を踏まえて検討しており、具体的には表 4 に示すとおりです。

表 4 植物の移植対象種に関する移植事例等及び移植方法

No.	種名	事例等	移植の際の留意点
1	キンラン	「キンランの移植方法とその結果に関する一考察」（水の技術、2005）等の文献において、移植の成功事例が紹介されている。	生育に共生菌を有する種であり、共生相手であるブナ科樹木の周辺に移植する。
2	ナギラン	事例はないが、「趣味の園芸 育てて楽しむ山野草のすべて」（NHK、2012）等の文献において同属のシュンランの移植方法が紹介されており、専門家からも「移植は可能である」との助言を得ている。	常緑樹林下に生育する種であり、生育地と同質の常緑樹林内に移植する。
3	アキザキヤツシロラン	事例はないが、専門家からは生育地と同様の植生環境下に移植する方法で「移植は可能である」との助言を得ている。	腐生菌類から養分を得ている種であり、生育地と同質の竹林内に移植する。
4	ムヨウラン属	「移植困難種であるムヨウラン属の移植成功事例について」（国土交通省、2014）等の文献において、移植の成功事例が紹介されている。	コジイ等のブナ科樹木に菌根を形成する菌類と共生する植物であり、コジイの苗と併せて生育地と同質の常緑樹林内に移植する。

保全措置を実施した後、移植した株の生育状況を観察し、必要に応じて草刈等の維持管理を行う環境監視を実施することとしています（準備書 P967）。環境監視の結果については、調査内容を適切に取りまとめた上で公表します。

22. 生態系の予測評価について【河野部会長】

影響予測フロー図によれば影響の程度は改変率で判断されるが、これでは影響が小さいことは予測評価を実施する前から想定され、結論が先にありきで、予測評価のフロー図としてほとんど意味をなさないと考えます。

(回答)

上位位性注目サシバの「造成等の施工、地形改変及び施設の存在」による影響については、繁殖場、採餌環境、営巣環境及び餌動物生息環境の詳細な現地調査を行い、対象事業実施区域及びその周辺における各環境について指数等を算出することにより、改変区域及び改変区域外の重み付けを行っています。具体的には、以下のとおりです。

影響要因	予測手法
繁殖への影響	サシバの現地での飛翔状況等から、行動圏内部構造を解析し、改変面積及び改変率を算出しました。
採餌環境への影響	サシバの現地での採餌状況から、植生区分毎の指数を算出し、改変面積及び改変率を算出しました。
営巣環境への影響	サシバの現地での営巣木の状況から、潜在的営巣場所を抽出し、改変面積及び改変率を算出しました。
餌動物生息環境への影響	サシバが現地で捕食していた餌動物の植生区分毎の現存量を把握した上で、植生区分毎の指数を算出し、改変面積及び改変率を算出しました。

典型性注目種テンの「造成等の施工、地形改変及び施設の存在」による影響については、生息環境、採餌環境及び繁殖環境の詳細な現地調査を行い、対象事業実施区域及びその周辺における各環境について指数等を算出することにより、改変区域及び改変区域外の重み付けを行っています。具体的には、以下のとおりです。

影響要因	予測手法
生息環境への影響	テンの現地での糞確認状況から、植生区分毎の指数を算出し、改変面積及び改変率を算出しました。
採餌環境への影響	テンが現地で捕食していた餌生物の植生区分毎の現存量を把握した上で、植生区分毎の指数を算出し、改変面積及び改変率を算出しました。
繁殖環境への影響	文献情報を基にテンの繁殖可能環境の現地での分布状況を把握し、改変面積及び改変率を算出しました。

以上の調査、解析及び予測の手法は、専門家に確認していただいた上で実施しています。

23. サシバへの影響について【河野部会長】

既設の2基の風車の周囲については飛翔が極めて少ない、回避あるいは忌避している可能性があると思なした解析が必要と考えますので検討願います。

サシバの営巣確認位置から高利用域500m以内に設置される1, 3, 6, 7番の風車は設置を取りやめるか営巣地点から500m以上離隔した配置を検討する必要があります。ここで指摘した風車に近接する営巣場所は風車建設後に営巣放棄になる可能性を否定できない状況ではないかと考えます。したがって、事後調査と、保全措置の検討が必要と考えます。

サシバの採餌環境として広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林が抽出されているが、餌動物指数は水田雑草群落などが抽出されていることとの矛盾はどのように説明するのでしょうか？

サシバの評価の結果については前述の指摘を考慮すると受け入れ難い内容であり、事後調査を含めて見直しが必要と考えます。

(回答)

専門家の先生の見解によれば、調査範囲及びその周辺にはフィリピンで越冬し大陸から朝鮮半島を経て渡来する西日本型のサシバ個体群が生息しており、この西日本型のサシバの特徴は、斜面林に営巣し樹上で餌を採る生態を有しています。

既設風力発電機の周辺には西日本型のサシバの生息に適さない平坦な畑地が広がっていることから、飛翔が少なくなっているものと考えられます。既設風力発電機の建設前に実施した1営巣期目(H28.4~7)でも、飛翔はほとんど確認されませんでした。建設前のサシバの確認位置図は準備書P835の第10.1.6-9図に示すとおりです。

サシバの繁殖に関する保全措置については専門家の意見を踏まえて検討しており、1号及び6号風力発電機について、サシバの繁殖期(4~7月)の全工事を中止することとしています。また、サシバは営巣場所を替えることが多いこと、潜在的営巣場所は広く分布しており、改変率はわずかであることから、営巣環境に対する影響はほとんどないと考えています。

現地調査においても、サシバの主な採餌環境は、広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林の樹上であり、主な餌動物はカエル類及びバッタ類であることを確認しました。カエル類及びバッタ類の現存量を植生区分毎に調査した結果、これら餌動物は、サシバの主な採餌環境である広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林よりも畑地雑草群落・乾性草地及び水田雑草群落・湿性草地の方が主要な生息環境であることを確認しました。以上のことから、サシバの餌動物の供給源が畑地雑草群落・乾性草地及び水田雑草群落・湿性草地であり、これらの環境から広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林に移動してきた個体を、サシバが捕食していると考えられます。そのため、採餌環境と餌動物生息環境を分けて、それぞれの環境において解析・予測を行いました。これら解析及び予測の手法は、専門家に確認していただいた上で実施しています。

24. 大気質、騒音及び超低周波音、振動の調査地点について（一部非公開）【準備書P367～369】

大気質、騒音及び超低周波音、振動の調査地点について、住宅、道路、測定場所の関係がわかる大縮尺の図（500 分の 1～2500 分の 1 程度）と測定環境の状況が分かる現地写真は記載されているか。【調査地点の妥当性を検討するため】

（回答）

道路交通に関する測定場所は、準備書 P367～369 に記載しています。

その他の測定場所の図面及び測定状況の写真は、図 11～図 13 に示すとおりです。

※図 11～13 のうち、個人の住宅が特定されるものは、非公開とします。

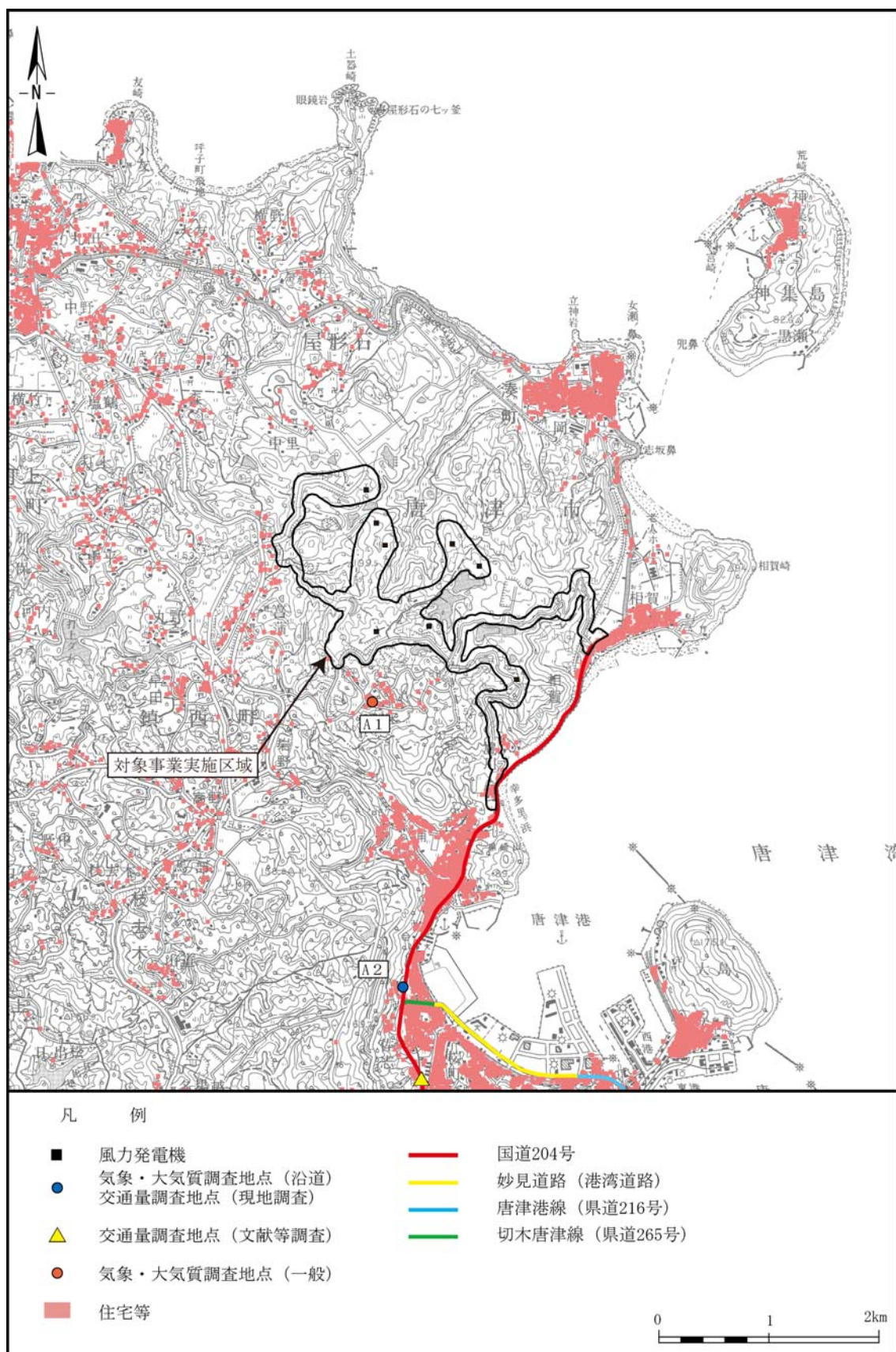


図 11(1) 大気質調査地点

「唐津・鎮西ウィンドファーム(仮称)設置計画に係る環境影響評価準備書」（平成 31 年、九電みらいエナジー株式会社）
[承認番号 平 30 情複、第 952 号]より作成

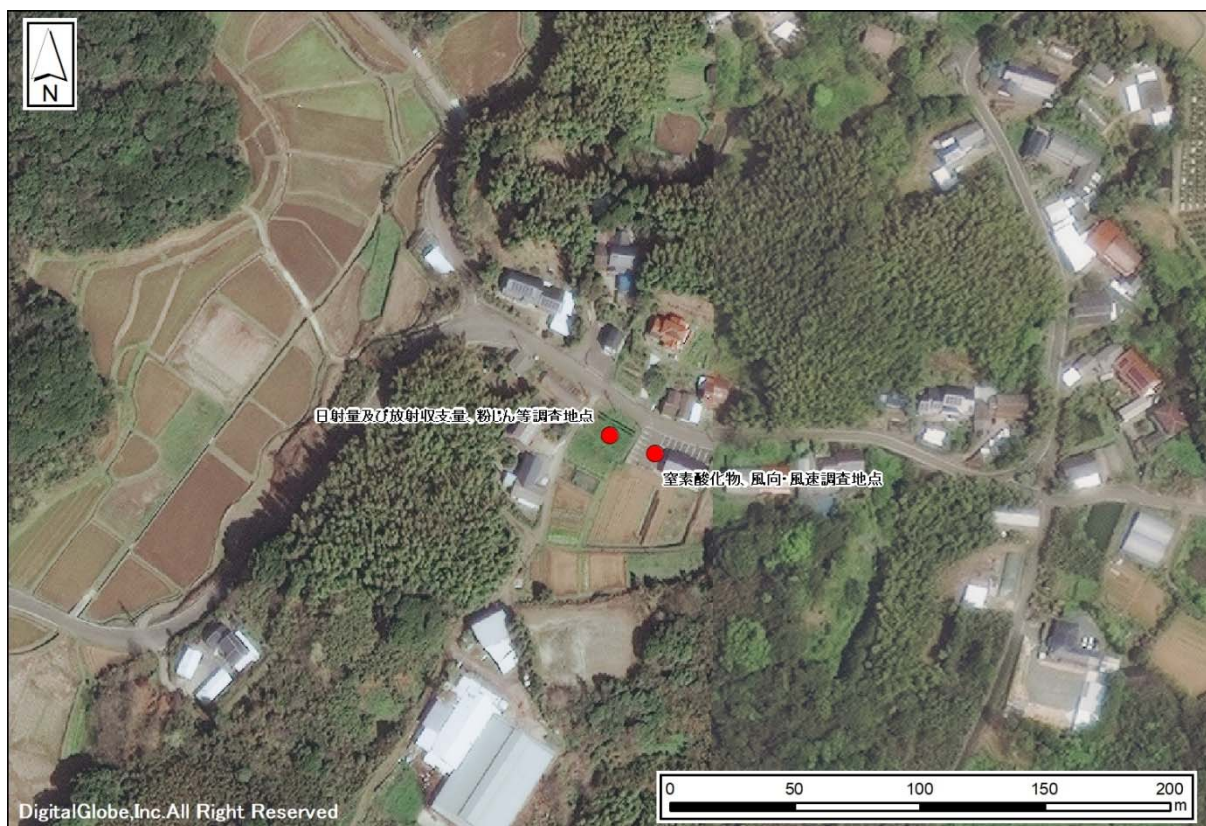


図 11(2) 調査地点位置（大気質、一般気象・大気質調査地点 A1）



図 11(3) 調査状況（大気質、一般気象・大気質調査地点 A1（窒素酸化物、風向・風速））



図 11(4) 調査状況（大気質、一般気象・大気質調査地点 A1（日射量及び放射収支量））



図 11(5) 調査状況（大気質、一般気象・大気質調査地点 A1（粉じん等））



図 11 (6) 調査地点位置（大気質、沿道気象・大気質調査地点 A2）



図 11 (7) 調査状況（大気質、沿道気象・大気質調査地点 A2（窒素酸化物、気象））



図 11(8) 調査状況（大気質、沿道気象・大気質調査地点 A2（粉じん等））

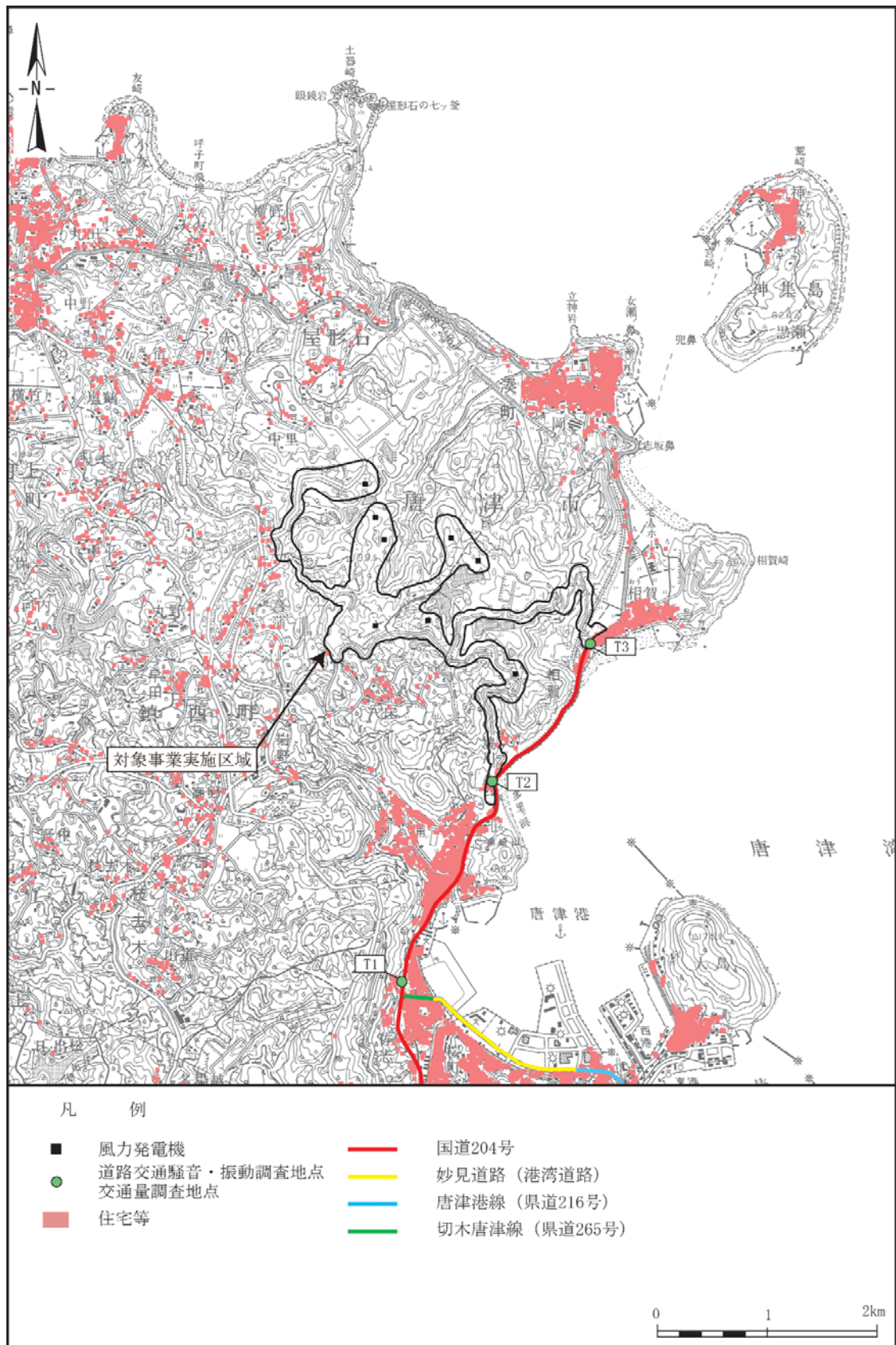


図 12(1) 騒音・振動調査地点 (道路交通)

「唐津・鎮西ウィンドファーム(仮称)設置計画に係る環境影響評価準備書」 (平成 31 年、九電みらいエナジー株式会社)
 [承認番号 平 30 情複、第 952 号]より作成



図 12(2) 調査地点位置（騒音・振動 T 1）



図 12(3) 調査状況（騒音・振動 T 1）



図 12(4) 調査地点位置（騒音・振動 T 2）



図 12(5) 調査状況（騒音・振動 T 2）



図 12(6) 調査地点位置（騒音・振動 T 3）



図 12(7) 調査状況（騒音・振動 T 3）

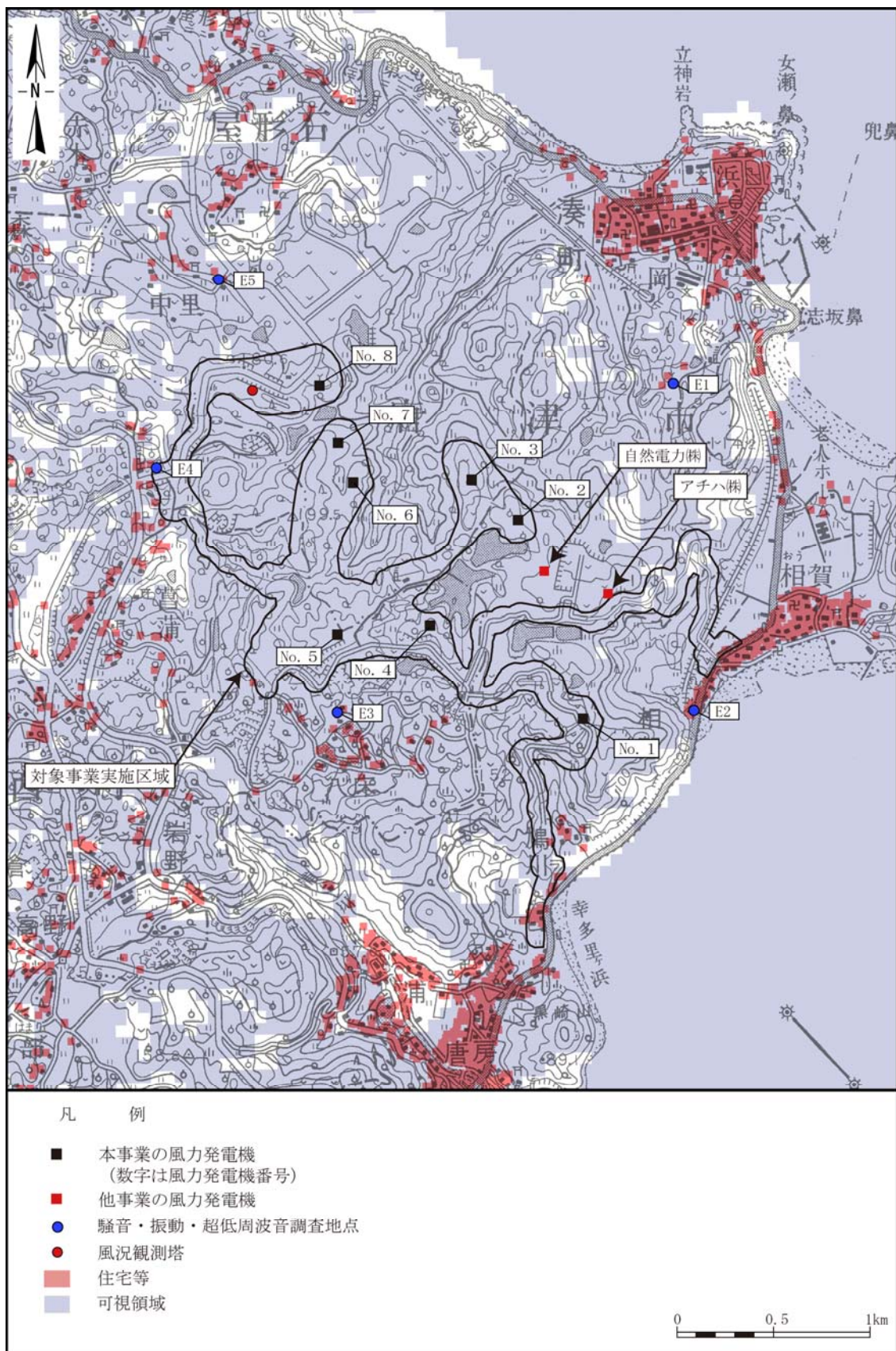


図 13(1) 騒音・振動・超低周波音調査地点（建設機械及び稼働時）

「唐津・鎮西ウィンドファーム(仮称)設置計画に係る環境影響評価準備書」(平成 31 年、九電みらいエナジー株式会社)
 [承認番号 平 30 情複、第 952 号]より作成



図 13(2) 調査地点位置（騒音・振動・超低周波音 E1）

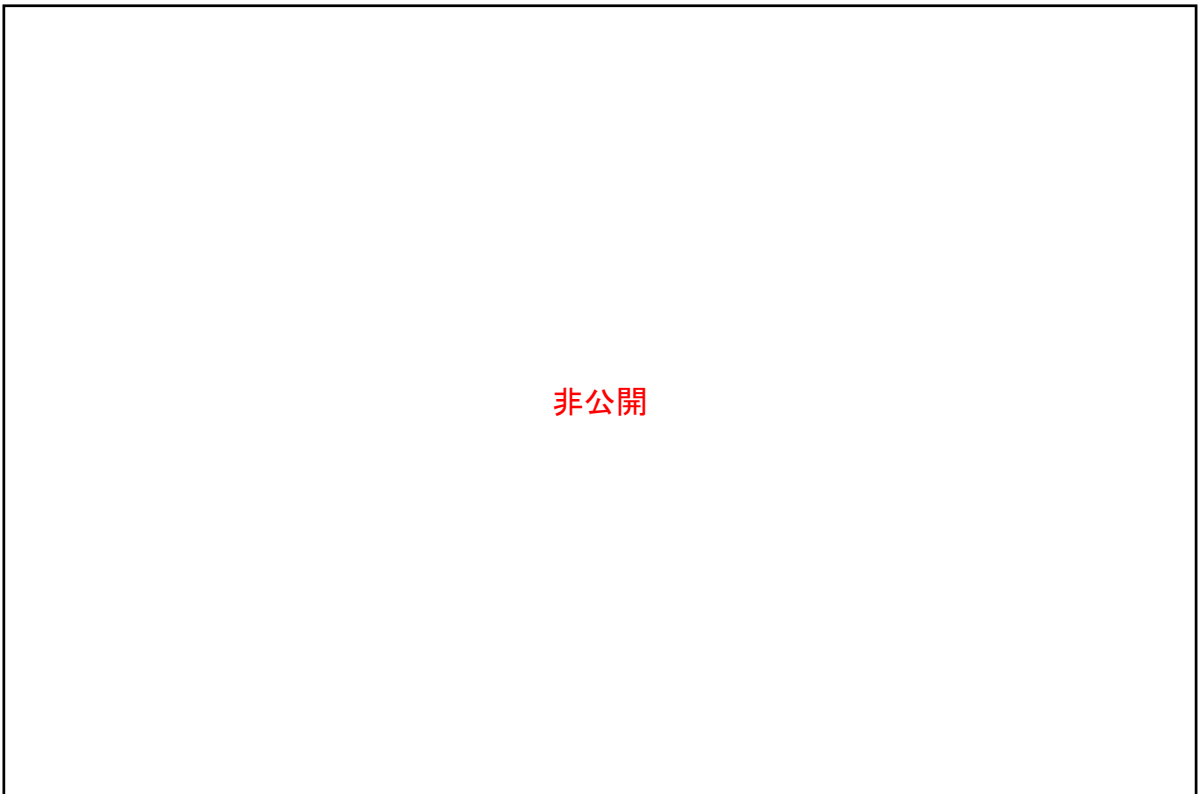


図 13(3) 調査状況（騒音・振動・超低周波音 E1）



図 13(4) 調査地点位置（騒音・振動・超低周波音 E2）

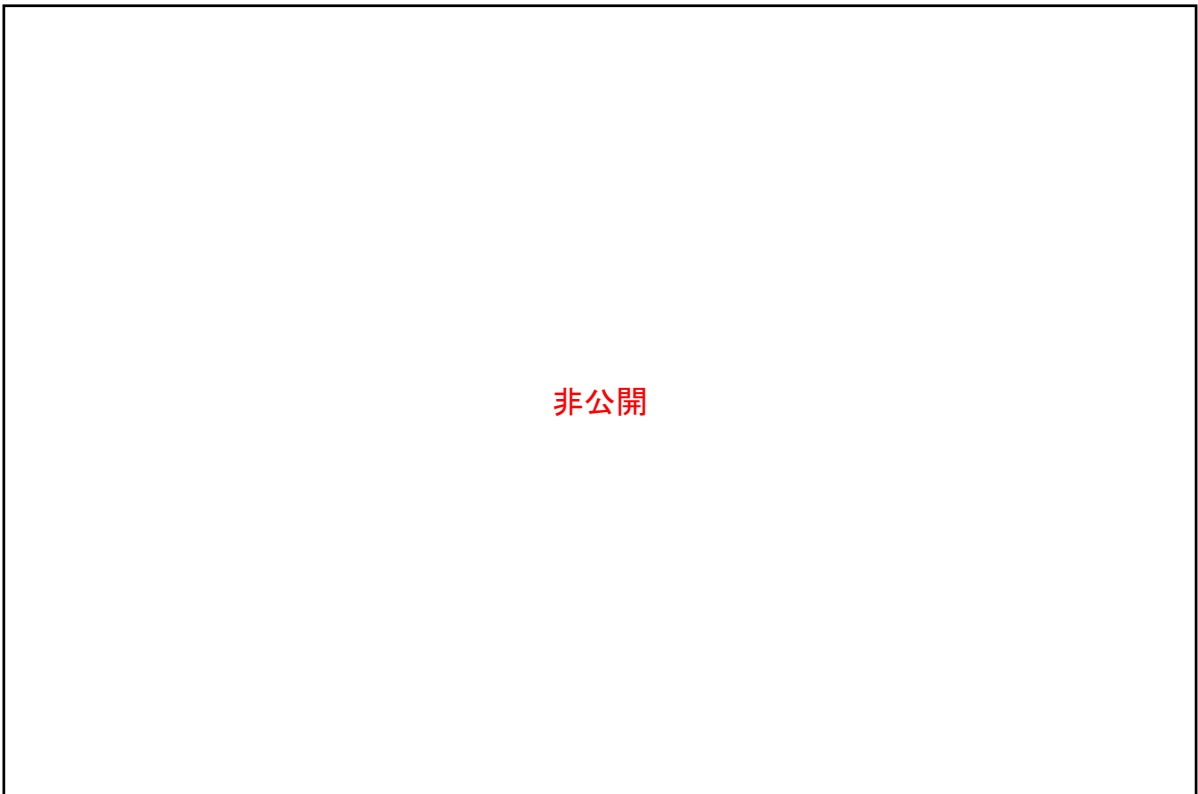


図 13(5) 調査状況（騒音・振動・超低周波音 E2）



図 13(6) 調査地点位置（騒音・振動・超低周波音 E3）

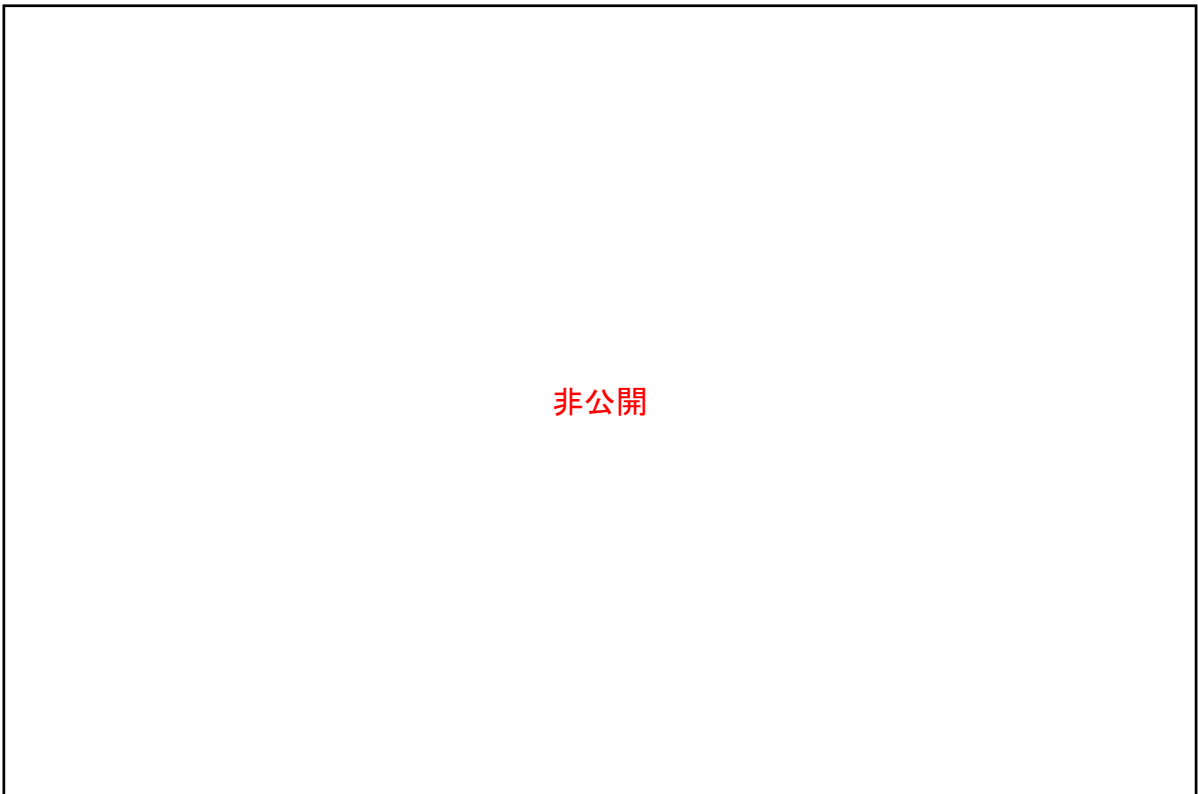


図 13(7) 調査状況（騒音・振動・超低周波音 E3）



図 13(8) 調査地点位置（騒音・振動・超低周波音 E4）

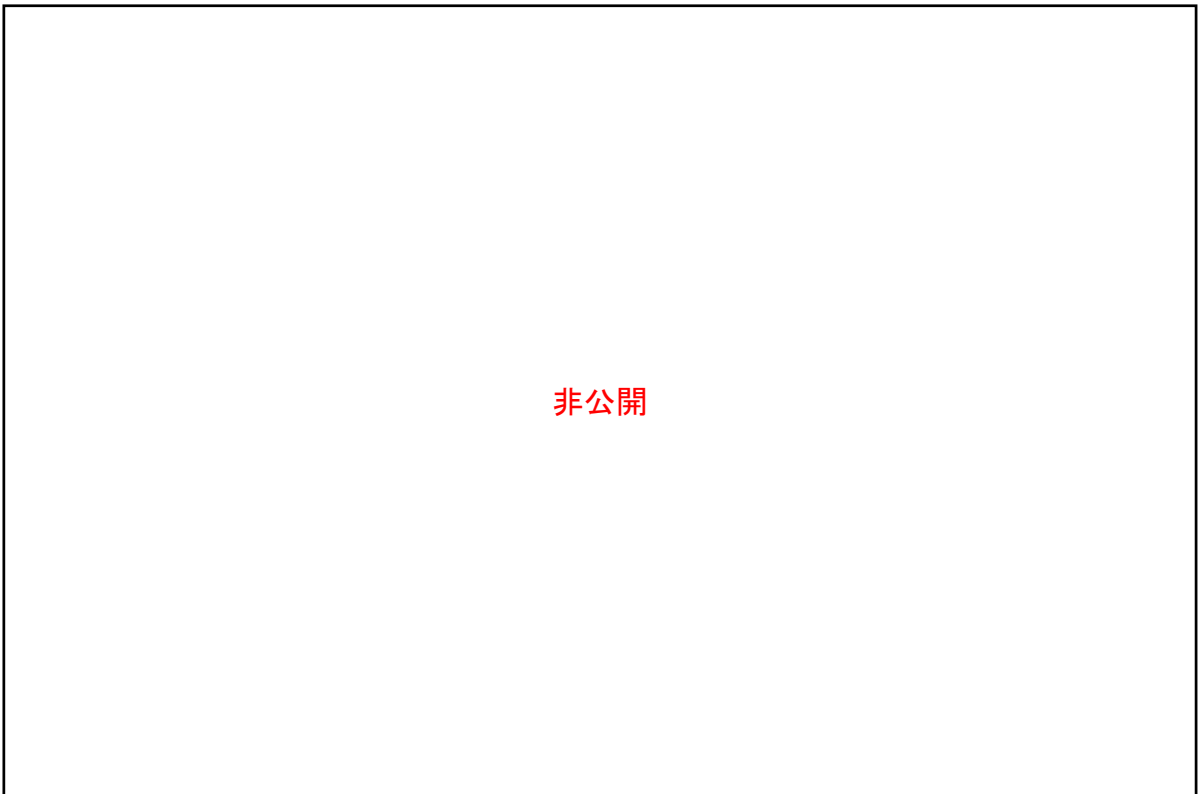


図 13(9) 調査状況（騒音・振動・超低周波音 E4）



図 13(10) 調査地点位置（騒音・振動・超低周波音 E5）

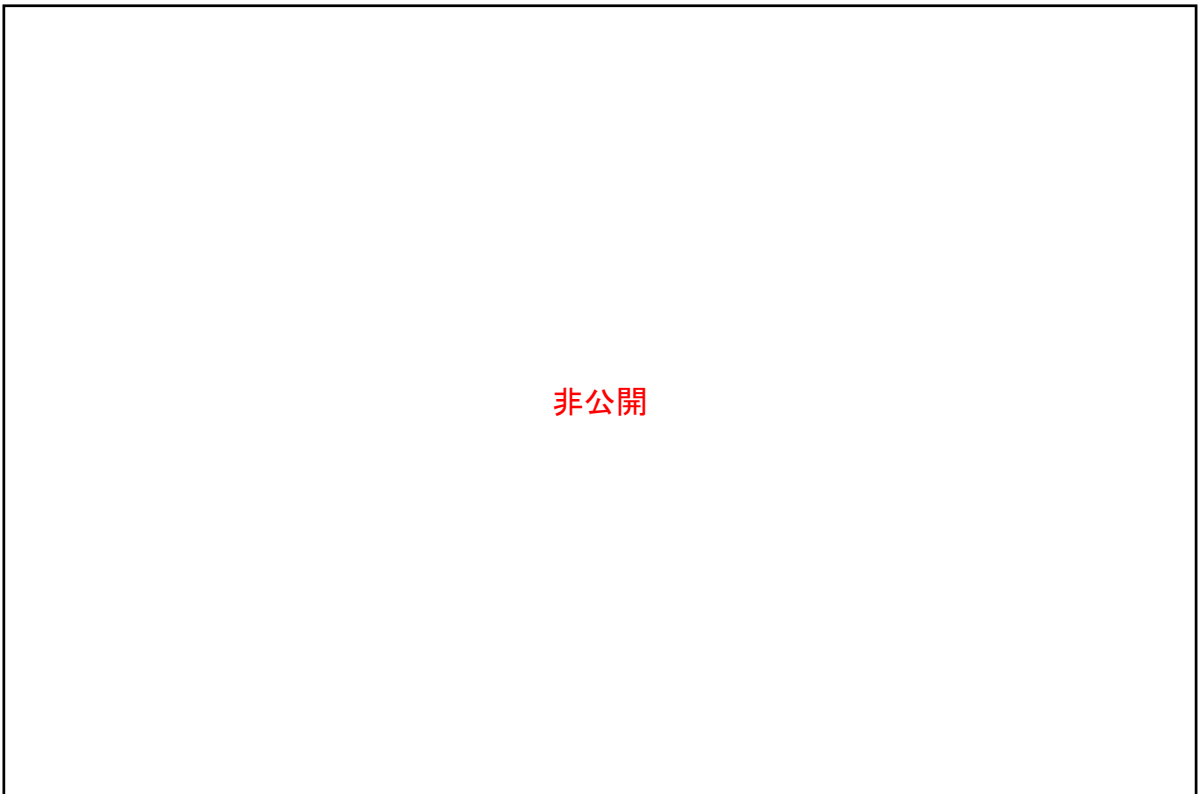


図 13(11) 調査状況（騒音・振動・超低周波音 E5）

25. ブラウン-ブランケ法による調査結果について、植生調査票、群落組成表を作成しているか。

(回答)

対象事業実施区域及びその周辺約 300mの範囲において、ブラウン-ブランケの植物社会学的植生調査法による植生調査を実施しました。調査地点毎の植生調査票（群落組成調査票）は別添資料 1 のとおりです。また、群落組成表は準備書 P790～801 の第 10.1.5-4 表に記載しています。

なお、植生調査地点の位置は準備書 P786 の第 10.1.5-1 図、調査結果の概要は準備書 P788 の第 10.1.5-3 表に記載しています。

26. 植生自然度が高い場所については、植生断面図が作成、記載されているか。

(回答)

現地調査で確認された植生の植生自然度は表5のとおりです。このうち、自然度の高い植生として、植生自然度10に該当する植生（ヨシクラス及びヒルムシロクラス）の植生断面図を図14に示します。

表5(1) 調査地域における現存植生の概要（現地調査）

植生区分	植生図 凡例 番号	群落名	主な構成種	植生 自然度
ヤブツバキ クラス域 代償植生	1	コジイ二次林	コジイ、クロキ、タブノキ、イヌビワ	8
	2	タブノキー ヤブニッケイ二次林	タブノキ、マテバシイ、ヒサカキ、シ ロダモ	8
	3	ハクサンボク マテバシイ群落	マテバシイ、ヒサカキ、タブノキ、ク ロキ	7
	4	アカメガシワ カラスザンショウ群落	アカメガシワ、カラスザンショウ、ア オモジ、ネムノキ	6
	5	メダケ群落	メダケ、ホシダ、ヒカゲイノコズチ、 イヌビワ	5
	6	クズ群落	クズ、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、 ススキ	5
	7	チガヤーススキ群落	チガヤ、ホシダ、クズ、セイタカアワ ダチソウ	5
	8	ダンチク群落	ダンチク	5
河川・湿原・塩 沼地・砂丘植 生等	9	ヨシクラス	ヌカキビ、サクラタデ、ケイヌビエ、 マコモ、ガマ、アメリカセンダングサ	10
	10	ヒルムシロクラス	ヒシ	10
植林地 耕作地植生	11	スギ・ヒノキ植林	スギ、ヒノキ、シロダモ、イヌビワ	6
	12	その他植林 (落葉広葉樹)	サクラ属、イロハモミジ、トウカエデ	6
	13	クヌギ植林	クヌギ、フユイチゴ、セイタカアワダ チソウ、クサギ	6
	14	モウソウチク林	モウソウチク、ヒサカキ、ジャノヒゲ	3
	15	マダケ・ハチク林	マダケ、ウマノミツバ、キツタ、ミツ バ	3
	16	路傍・空地雑草群落	セイタカアワダチソウ、タチスズメノ ヒエ、オオブタクサ	4

表 5 (2) 調査地域における現存植生の概要（現地調査）

植生区分	植生図 凡例 番号	群落名	主な構成種	植生 自然度
植林地 耕作地植生	17	常緑果樹園	ヒサカキ、クロマツ、ウンシュウミカン	3
	18	畑雑草群落	コメヒシバ、マルバツユクサ、ナズナ、ノゲシ	2
	19	水田雑草群落	イネ、ボントクタデ、イヌビエ、トキンソウ、アゼトウガラシ	2
	20	放棄水田雑草群落	セリ、ミゾソバ、セイタカアワダチソウ	4
その他	21	市街地	なし	1
	22	緑の多い住宅地	なし	2
	23	公園・墓地等	なし	3
	24	造成地	なし	1
	25	開放水域	なし	99

注：1. 植生図凡例番号は、準備書第10.1.5-2図を参照。

2. 植生自然度は、「自然環境保全基礎調査 植生調査実施要領（平成29年度版）」（環境省自然環境局生物多様性センター、平成29年）を参照。

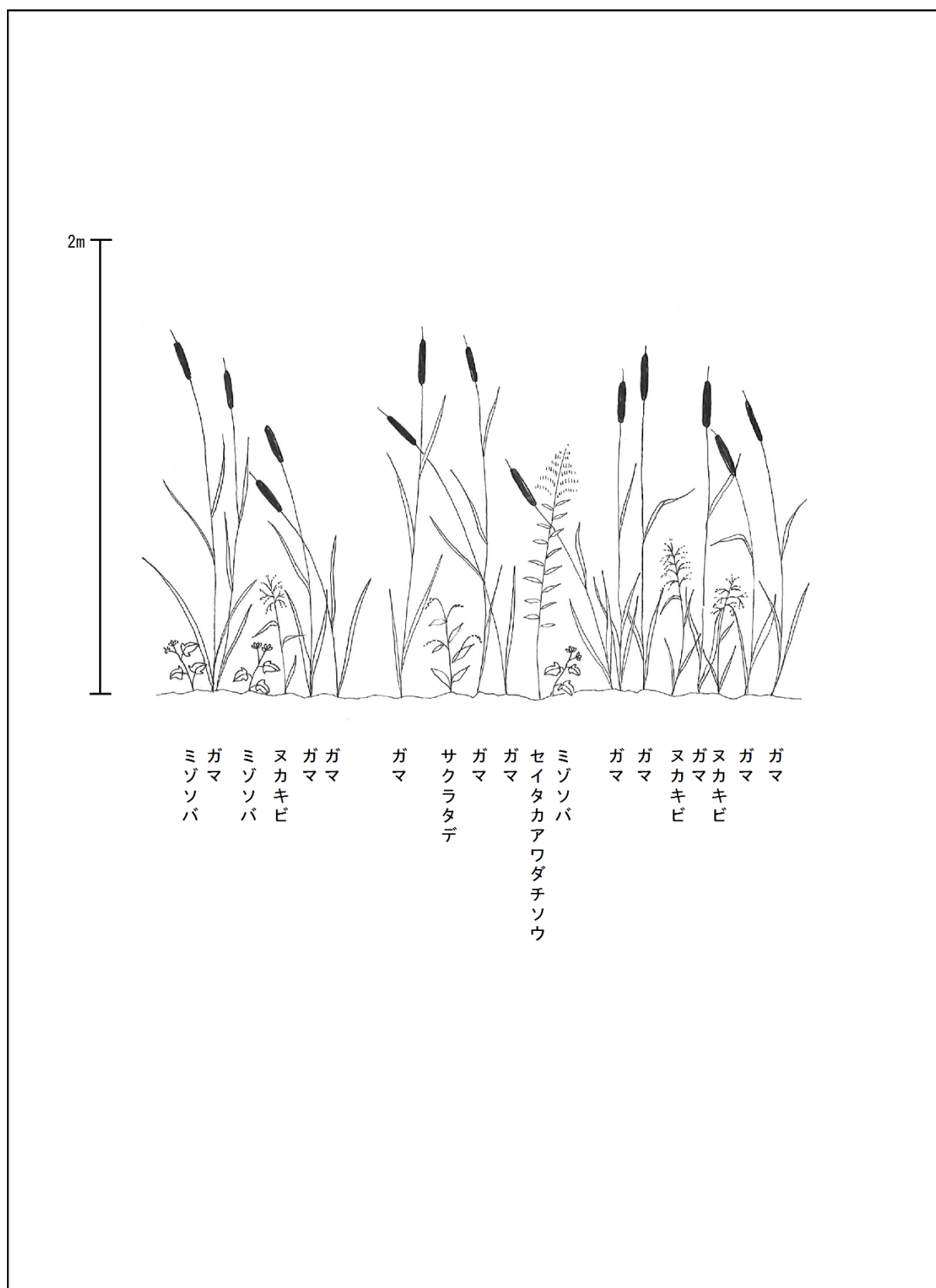


図 14(1) 自然度の高い植生の植生断面図（ヨシクラス）

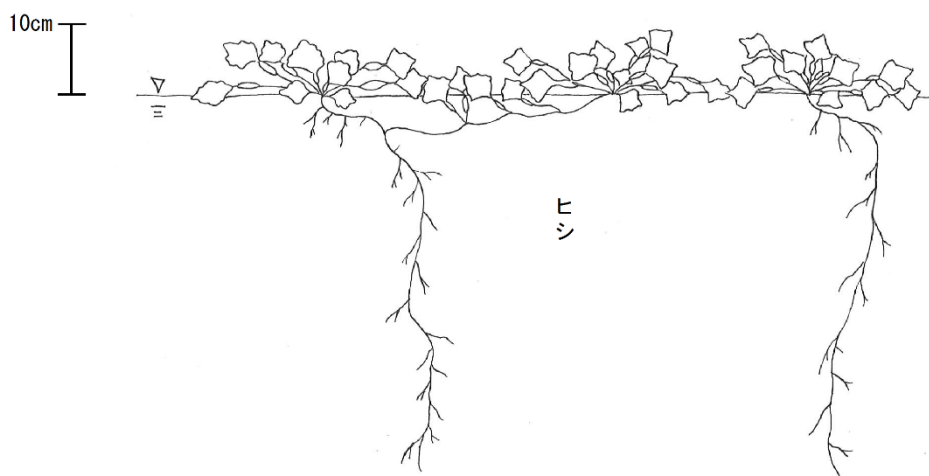


図14(2) 自然度の高い植生の植生断面図（ヒルムシロクラス）

27. 植物目録を作成する際に準拠した目録・根拠について。

現地調査で確認された植物については、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成29年度生物リスト）」（国土交通省、平成29年）に準拠して目録を作成しました。

「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に記載のない植物種については、「改訂新版日本の野生植物1～5」（平凡社、平成27年～平成29年）等の植物図鑑により種名を調べた上で、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」における配列方法に従い、目録を作成しました。

28. 植物の移植先の植生調査等を実施しているか。また、必要に応じ移植後の事後調査が計画されているか。

移植先は、現生育地・移植先候補地の植生を把握した上で、文献等の知見、専門家からの助言等を踏まえ、表6の観点から選定しています。

表6 移植先の選定

種 名	生育地の植生	移植先の植生	移植先選定で考慮した事項
キンラン	・ コジイ二次林の林縁	・ クヌギ植林	改変範囲外で、本種が生育する場所の近傍とした。共生菌を有するランであることから、共生相手であるブナ科樹木のクヌギが植林されている、明るく土壌が適潤な林床とした。
ナギラン	・ ハクサンボクーマテバシイ群落 ・ マダケ・ハチク林	・ ハクサンボクーマテバシイ群落	改変範囲外で、本種が生育する場所の近傍とした。常緑の多年草で、常緑樹林の林床等に生育するため、土壌が適潤で常緑樹が優占する樹林内とした。
アキザキ ヤツシロラン	・ モウソウチク林 ・ タブノキ-ヤブニッケイ二次林とスギ-ヒノキ植林の境界	・ モウソウチク林	改変範囲外で、本種が生育する場所の近傍とした。腐生菌類から養分を得る多年草で、常緑樹林や竹林下に生育することから、土壌が適潤なモウソウチク林内とした。
ムヨウラン属	・ ハクサンボクーマテバシイ群落 ・ コジイ二次林	・ ハクサンボクーマテバシイ群落	改変範囲外で、本種が生育する場所の近傍とした。コジイ等のブナ科樹木に菌根を形成する菌類と共生することから、土壌が適潤でブナ科樹木が優占する樹林内とした。

植物の重要な種については、準備書P967の第10.2.4-1表に記載のとおり、環境監視として、移植後3年間程度、生育状況を観察し、必要に応じて草刈り等の維持管理を行う計画しています。

植物の事後調査については、準備書P968に記載のとおり、環境保全措置を確実に実行することにより予測及び評価の結果を確保できると考えられることから、実施する計画はありません。

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	2017/11/6
-----	--------	----	---	-------	-----------

コドラート番号		0-1		群落名		ハクサンボクマテバシイ群落					
地形	山頂（尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）・台地・扇状地・平地・谷					標高	153m				
群落	（高）・低・植林・草		海（岸・浜・中）		湿原・河（岸・中）		池（岸・中）		方位	-	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-	
土壌	ポド性 褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積					
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他（										
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰		風当	強・中・弱		20×20	=	400 m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マテバシイ	6~13	90	11.5
II	亜高木層	クロキ	2~5	10	4.8
III-1	低木層-1	ヒサカキ	0~1.8	20	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ツワブキ	0~0.3	5	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	4・4	マテバシイ
	2・2	タブノキ
	1・1	クヌギ
	1・1	コナラ
II	2・2	クロキ
	+	ヤブツバキ
III-1	2・2	ヒサカキ
	1・2	ヤブツバキ
	+	ハクサンボク
	+	ナワシログミ
		モチノキ
	+	イヌビワ
IV-1	+	ツワブキ

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		0-2		群落名		スギ・ヒノキ植林						
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷							標高	165m			
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-		
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-		
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積							面積				
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()											
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰		風当	強・中・弱		20×20	=	400 m2	

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	スギ	10~20	80	26
II	亜高木層	イヌビワ	3~7	10	2.4
III-1	低木層-1	アオキ	1~1.7	20	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ハナミョウガ	0~0.5	50	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	スギ
II	1・2	イヌビワ
	1・1	カクレミノ
III-1	2・2	アオキ
	1・1	ヤツデ
	1・1	シロダモ
	+	トベラ
	+	ハマビワ
	+	カゴノキ
	+	ムクノキ
IV-1	2・2	ハナミョウガ
	1・2	ツツブキ
	1・2	ベニシダ
	1・2	テイカカズラ
	1・1	フモトシダ
	1・1	ネズミモチ
	1・1	ヤブラン
	1・1	ヒカゲイノコズチ
	1・1	イワガネゼンマイ
	1・1	ニガカシュウ
	+	カラムシ
	+	イノデ
	+	クサギ

[illegible][illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		0-3		群落名		スギ・ヒノキ植林				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	139m			
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	SE
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	10度
土壌	ポド性 <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	20×20 = 400 m2			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	<u>乾</u> ・適・ <u>湿</u> ・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰		風当	強・ <u>中</u> ・弱			

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	スギ	12~18	95	24
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	シロダモ	1~3	5	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ヤブラン	0~1	5	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	スギ
III-1	1・1	シロダモ
	+	タブノキ
	+	アオキ
IV-1	+	ヤブラン
	+	イヌビワ
	+	ドクダミ
	+	ホシダ
	+	ハナミョウガ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市			季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日	
-----	--------	--	--	----	---	-------	------------	--

コドラート番号	Q-4		群落名	タブノキ-ヤブニッケイ二次林				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	134m	
群落	<u>高</u> ・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	SE	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	24度	
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積		
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()							
土湿	<u>乾</u> ・適・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	15×15 = 225 m2	

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	タブノキ	10~15	80	11
II	亜高木層	シロダモ	4~5.5	10	3
III-1	低木層-1	ヤブツバキ	1~3	20	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	テイカカズラ	0~0.3	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	タブノキ
	1・1	カラスザンショウ
II	1・1	シロダモ
	+	ハゼノキ
	+	マテバシイ
III-1	2・2	ヤブツバキ
	1・2	アオキ
	1・2	ヒサカキ
	1・1	ヤブニッケイ
IV-1	1・1	テイカカズラ
	1・1	フウトウカズラ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-5		群落名	モウソウチク林			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	148m
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性 褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・適・過湿		日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	20×20 = 400 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	モウソウチク	8~18	90	13
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	ヒサカキ	2~5.3	10	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	カラムシ	0~0.9	40	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	モウソウチク
III-1	1・1	ヒサカキ
	1・1	アオキ
IV-1	3・3	カラムシ
	2・2	ケチヂミザサ
	1・1	ハナミョウガ
	1・1	ヤナギイノコズチ
	+	ミツバ
	+	ムサシアブミ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-6		群落名	畑雑草群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	166m
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)						
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	2×5 = 10 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ハキダメギク	0~0.3	60	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	3・3	ハキダメギク
	1・1	ナズナ
	1・1	イヌタデ
	+・1	オヒシバ
	+	ノゲシ
	+	オオアレチノギク
	+	ノボロギク
	+	シロツメクサ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-7		群落名		コジニ二次林				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	161m		
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	SW
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	22度
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積						面積			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	<u>乾</u> ・適・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰		風当	強・ <u>中</u> ・弱		20×20 = 400	m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ツブラジイ	13~22	90	19
II	亜高木層	クロキ	3~5	10	4
III-1	低木層-1	ツブラジイ	2~4	30	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	テイカカズラ	0~0.5	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ツブラジイ
	1・1	マテバシイ
	1・1	クヌギ
II	2・2	クロキ
	1・1	マテバシイ
III-1	3・3	ツブラジイ
	1・1	ヤブツバキ
	+	ハマビワ
	+	イヌビワ
	+	イヌガヤ
	+	ヤブムラサキ
IV-1	1・1	テイカカズラ
	1・1	クズ
	1・1	ハナミョウガ
	+・1	ジャノヒゲ
	+	ハクサンボク
	+	ヤブニツケイ
	+	ツワブキ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-8	群落名	畑雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	131m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積 高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)					面積	
土湿	乾・滴・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	2×4	= 8 m ²

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ホトケノザ	0~0.3	70	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	3・3	ホトケノザ
	2・2	ノボロギク
	2・2	ナズナ
	1・1	コハコベ
	1・1	オヒシバ
	1・1	ノゲシ
	1・1	マルバツユクサ
	+	コゴメガヤツリ
	+	アメリカタカサブロウ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-9		群落名		畑雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	140m		
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積								面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)									
土湿	(乾)・適・湿・過湿		日当		(陽)・中陰・陰		風当		強・(中)・弱	2×4 = 8 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	コセンダングサ	0~0.9	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	コセンダングサ
	1・1	ツクサ
	+	オオアレチノギク
	+	ヘクソカズラ
	+	コミカンソウ
	+	オニノゲシ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-10		群落名	タブノキ・ヤブニッケイ二次林			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷				標高	170m	
群落	<u>高</u> ・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	SW
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	18度
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	20×20 = 400 m2
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	<u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	タブノキ	12~20	90	32
II	亜高木層	タブノキ	3~5	10	4
III-1	低木層-1	イヌビワ	1~2	20	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ジャノヒゲ	0~0.3	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	タブノキ
	2・2	マテバシイ
	1・1	スダジイ
II	2・2	タブノキ
	1・1	イヌビワ
III-1	2・2	イヌビワ
	2・2	ヒサカキ
	1・1	ヤマモモ
	1・1	クロキ
	1・1	アオキ
IV-1	1・2	ジャノヒゲ
	1・2	ベニシダ
	1・1	テイカカズラ
	1・1	ハナミョウガ
	1・1	ツワブキ
	1・1	ハクサンボク
	+	ナワシログミ
	+	シロダモ
	+	ムベ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-11	群落名	ハクサンボクマテバシイ群落				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	187m
群落	<u>乾</u> ・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	SE	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	28度	
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	<u>乾</u> ・適・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	20×20	= 400 m ²

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マテバシイ	12~22	90	32
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	ヒサカキ	1~4	20	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ベニシダ	0~0.3	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	マテバシイ
	1・1	ツブラジイ
III-1	2・2	ヒサカキ
	1・1	イヌビワ
	1・1	マテバシイ
	1・1	クロキ
	+	ハクサンボク
	+	クチナシ
	+	アオキ
IV-1	1・2	ベニシダ
	1・1	テイカカズラ
	1・1	マテバシイ
	1・1	ジャノヒゲ
	+	シロダモ
	+	イヌビワ
	+	ハマビワ

[illegible][illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-12		群落名	コジイ二次林			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> ・上・中・下・凸・凹・台地・扇状 <u>地</u> ・平地・谷					標高	161m
群落	<u>高</u> ・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	SW
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	20度
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	<u>乾</u> ・適・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	20×20 = 400 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ツブラジイ	8~13	90	24
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	クロキ	1~3.5	30	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ハナミョウガ	0~0.5	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ツブラジイ
	+	クリ
	+	マテバシイ
III-1	2・2	クロキ
	1・1	カクレミノ
	1・1	ヤブニッケイ
	+	ネズミモチ
	+	クチナシ
IV-1	1・2	ハナミョウガ
	1・1	テイカカズラ
	1・1	イヌビワ
	1・1	タブノキ
	1・1	ベニシダ
	+・1	ジャノヒゲ
	+	シロダモ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-13		群落名	路傍・空地雑草群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	148m
群落	高・低・植林(草)	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	-	
土壌	ポド性(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	(乾)・適・湿・過湿	日当	(陽)・中陰・陰	風当	強・(中)・弱	3×3	= 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	セイタカアワダチソウ	0~1.8	100	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	3・3	セイタカアワダチソウ
	2・2	クズ
	2・2	ヨモギ
	1・2	ススキ
	1・2	シナダレスズメガヤ
	1・1	ヘクソカズラ
	1・1	カラスウリ
	1・1	ノブドウ
	1・1	メリケンガヤツリ
	+	クサイチゴ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-15	群落名	チガヤススキ群落				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> ・上・中・下・凸・凹・台地・扇状地・平地・谷					標高	113m
群落	高・低・植林・ <u>草</u>		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	NW
	路・水田・畑・ <u>堤</u>		砂・岩・樹上			傾斜	20度
土壌	ポド性 <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	2×2 = 4 m2
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	チガヤ	0~0.9	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	チガヤ
	1・2	セイタカアワダチソウ
	1・2	クズ
	1・1	ホシダ
	1・1	ヤマノイモ
	+	ススキ
	+	ヒメジョオン

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-16	群落名	放棄水田雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	146m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	-	
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)						
土湿	乾・適・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	3×3	= 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ミゾソバ	0~0.4	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	ミゾソバ
	3・3	セリ
	1・2	サクラタデ
	+	サヤヌカグサ
	+	ヒメクグ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-17		群落名		スギ・ヒノキ植林				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	140m		
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	W
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	22度
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積						面積	20×20 = 400 m2		
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰		風当	強・ <u>中</u> ・弱			

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ヒノキ	8~15	90	32
II	亜高木層	ツブラジイ	6~9	30	4
III-1	低木層-1	イヌビワ	1~3.5	40	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ベニシダ	0~0.5	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ヒノキ
	1・2	シロダモ
	1・1	アラカシ
II	2・2	ツブラジイ
	+	シュロ
III-1	3・3	イヌビワ
	2・2	ネズミモチ
	2・2	テイカカズラ
	1・2	アオキ
	1・1	アラカシ
	1・1	ヤブニッケイ
	+	ビワ
IV-1	3・3	ベニシダ
	2・2	イノデ
	2・2	ナガバヤブソテツ
	1・2	フモトシダ
	1・2	ジャノヒゲ
	1・2	ヤブラン
	1・2	キツタ
	1・1	シロダモ
	+	イヌマキ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-18		群落名		メダケ群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	147m		
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	E
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	20度
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積 高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()								面積	2×10 = 20 m2
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰		風当	強・中・弱			

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	メダケ	3~6.2	100	1
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	ヒサカキ	1~2	40	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ツワブキ	0~0.5	30	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	メダケ
	1・1	ネムノキ
III-1	3・3	ヒサカキ
	1・1	カニクサ
	1・1	サネカズラ
IV-1	2・2	ツワブキ
	1・2	コシダ
	1・2	ウラジロ
	1・2	ゼンマイ
	1・1	フユイチゴ

[illegible][illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-19		群落名	モウソウチク林			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> ・上・中・下・凸・凹・台地・扇状地・平地・谷				標高	165m	
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	SW
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	10度
土壌	ポド性 <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	20×20 = 400 m2
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	モウソウチク	13~23	90	14
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ケチヂミザサ	0~0.8	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	モウソウチク
IV-1	3・3	ケチヂミザサ
	2・2	ヒナタイノコズチ
	1・2	テイカカズラ
	1・2	ツワブキ
	1・1	ジャノヒゲ
	1・1	ミツバ
	1・1	ノブドウ
	1・1	ハゼノキ
	1・1	ムベ
	+	ムクノキ
	+	フユイチゴ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-20		群落名		スギ・ヒノキ植林				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> ・上・中・下・凸・凹・台地・扇状地・平地・谷						標高	163m		
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	NE
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	20度
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積						面積	20×20 = 400 m2		
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰		風当	強・ <u>中</u> ・弱			

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ヒノキ	8~14	90	16
II	亜高木層	マテバシイ	2~6	20	5
III-1	低木層-1	ヒサカキ	1~4	40	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1		0~0.5	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ヒノキ
	1・2	マテバシイ
	+	クリ
II	1・1	マテバシイ
III-1	2・2	ヒサカキ
	1・2	クロキ
	1・2	マテバシイ
	1・1	シロダモ
	1・1	タブノキ
	1・1	ネズミモチ
	+	ハクサンボク

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-21		群落名		ハクサンポク-マテバシイ群落					
地形	山頂・尾根(斜面)上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	159m				
群落	(高)・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	NE	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	28度	
土壌	ポド性(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	20×20 = 400 m2				
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()										
土湿	乾・(適)・湿・過湿		日当	(陽)・中陰・陰		風当	強・(中)・弱				

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マテバシイ	6~11	90	17
II	亜高木層	モチノキ	3~5	20	5
III-1	低木層-1	クロキ	1~4	30	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ヒサカキ	0~1	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	マテバシイ
	1・2	タブノキ
	1・2	ツブラジイ
II	1・2	モチノキ
	1・1	クロキ
III-1	2・2	クロキ
	1・2	ヒサカキ
	1・2	ツブラジイ
	1・1	ネズミモチ
IV-1	2・2	ヒサカキ
	1・1	マテバシイ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-22		群落名		ヨシクラス					
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	130m				
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池・岸・中		方位	-	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-	
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝ゲマイ・沼沢・沖積					面積					
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()					3×3 = 9 m2					
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰			風当	強・中・弱			

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ケイヌビエ	0~1.3	90	-
IV-2	草本層-2				-

[illegible][illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-23		群落名		ヨシクラス							
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷										標高	133m	
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-			
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-			
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積										面積		
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()										3×3 = 9 m2		
土湿	乾・適・湿・過湿		日当		(陽・中陰・陰		風当		強・中・弱				

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	マコモ	0~1.1	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	マコモ
	2・2	ヌカキビ
	1・2	サクラタデ
	1・2	アキノウナギツカミ
	1・2	オオオナモミ
	1・1	アメリカセンダングサ
	1・1	カサスゲ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-24		群落名	メダケ群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	176m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰		風当	強・中・弱	5×5 = 25 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	メダケ	2~5	90	2
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	ヤブツバキ	1~4	10	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	フキ	0~0.3	50	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	メダケ
III-1	1・1	ヤブツバキ
IV-1	2・2	フキ
	1・2	ノハカタカラクサ
	1・1	カラスウリ
	1・1	イノデ
	1・1	ミズヒキ
	1・1	ホシダ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-25		群落名		コジニ二次林						
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷							標高	170m			
群落	④・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-		
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-		
土壌	ポド性 褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積							面積	20×20 = 400 m2			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()											
土湿	乾・適・湿・過湿		日当		陽・中陰・陰		風当		強・中・弱			

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ツブラジイ	11~17	90	26
II	亜高木層	タブノキ	3~6.5	30	8
III-1	低木層-1	ヒサカキ	1~4	50	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	テイカカズラ	0~1	30	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ツブラジイ
II	2・2	タブノキ
	1・2	ツブラジイ
III-1	3・3	ヒサカキ
	2・2	ツブラジイ
	2・2	クロキ
	1・1	ハゼノキ
	1・1	ハクサンボク
	1・1	クチナシ
IV-1	2・2	テイカカズラ
	2・2	マテバシイ
	1・2	フユイチゴ
	1・2	ジャノヒゲ
	1・2	ヘクソカズラ
	1・2	ネズミモチ
	1・2	サルトリイバラ
	1・1	シロダモ
	+	ハマビワ
	+	イヌビワ
	+	ハマクサギ

[illegible][illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市		季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日	
-----	--------	--	----	---	-------	------------	--

コドラート番号	Q-26	群落名	路傍・空地雑草群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷				標高	150m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積				面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()					
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	4×4 = 16 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	オオブタクサ	0~3.5	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	オオブタクサ
	3・3	セイタカアワダチソウ
	2・2	ノイバラ
	2・2	クサギ
	2・2	ヨモギ
	1・2	キンミズヒキ
	1・2	クズ
	1・2	コセンダングサ
	1・2	クサイチゴ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-27		群落名		クヌギ植林					
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	168m				
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	NE	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	12度	
土壌	ポド性 <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積					
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()					5×5 = 25 m2					
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰				風当	強・ <u>中</u> ・弱		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	クヌギ	0.5~2	80	1.5
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	フユイチゴ	0~0.5	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-1	4・4	クヌギ
	2・2	アオモジ
	1・2	アカメガシワ
	1・2	ハゼノキ
	1・2	マテバシイ
	1・1	コナラ
	1・1	ツブラジイ
IV-1	5・5	フユイチゴ
	2・2	セイタカアワダチソウ
	1・2	クサギ
	1・2	テイカカズラ
	1・2	クサイチゴ
	1・2	ハナミョウガ
	1・1	カラスウリ

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-28		群落名		畑雑草群落					
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷								標高	193m	
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-	
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積 高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)								面積	2×4 = 8 m2	
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰		風当	強・中・弱				

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	マルバツユクサ	0~0.4	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	マルバツユクサ
	2・2	コセンダングサ
	1・2	メヒシバ
	1・2	コゴメガヤツリ
	1・2	セイタカアワダチソウ
	1・1	イヌビエ
	1・1	ベニバナボロギク
	1・1	クズ
	1・1	ウラジロチチコグサ
	+	カタバミ
	+	アメリカイヌホオズキ

[illegible][illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-29		群落名	ヨシクラス				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	137m	
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)		方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積		
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()							
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	3×3	= 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ガマ	0~1.6	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	ガマ
	2・2	ヌカキビ
	2・2	ミゾソバ
	1・2	ハッカ
	1・2	サクラタデ
	1・2	セイタカアワダチソウ
	+	オヘビイチゴ
	+	イ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-31		群落名		モウソウチク林				
地形	山頂・尾根・ ☒ 斜面(上・ ☒ 中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	80m		
群落	高・低・ ☒ 植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	NW
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	20度
土壌	ポド性 ☒ 褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積						面積			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	乾・ ☒ 適・湿・過湿		日当		☒ 陽・中陰・陰		風当		強・ ☒ 中・弱	20×20 = 400 m ²

階層構造	優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I 高木層	モウソウチク	11~19	90	14
II 亜高木層	ヒサカキ			
III-1 低木層-1		1~2	30	
III-2 低木層-2				
IV-1 草本層-1	シロダモ	0~0.5	10	-
IV-2 草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	モウソウチク
II	2・2	ヒサカキ
	1・2	アオキ
	1・2	イヌビワ
	1・1	ヤブムラサキ
	1・1	クチナシ
	1・1	シロダモ
	1・1	ヤブツバキ
	+	ホルトノキ
IV-1	2・2	シロダモ
	1・2	フウトウカズラ
	1・2	ジャノヒゲ
	1・1	イヌビワ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号	Q-32	群落名	水田雑草群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷				標高	113m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積				面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)					
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	1×4 = 4 m ²

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ミゾソバ	0~1	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	ミゾソバ
	3・3	ボントクタデ
	2・2	セリ
	1・2	オオクサキビ
	1・2	ケイヌビエ
	1・2	アゼトウガラシ
	1・2	スギナ
	1・1	ヨメナ
	1・1	ヒデリコ
	1・1	スカシタゴボウ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-33		群落名		常緑果樹園							
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇地・平地・谷							標高	140m				
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-			
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-			
土壌	ポド性・褐・赤・黄・黄褐・森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積							面積					
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()												
土湿	(乾)・適・湿・過湿		日当		(陽)・中陰・陰		風当		強・(中)・弱		5×5 = 25 m2		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	ヒサカキ	0.5~2	90	1
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	クズ	0~1	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-1	5・5	ヒサカキ
	1・2	ヤマノイモ
	1・1	ハゼノキ
IV-1	1・2	クズ
	1・2	コセンダングサ
	1・2	カラスウリ
	1・1	オオアレチノギク

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号	Q-34	群落名	アカメガシワ-カラスザンショウ群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	132m
群落	高・ <u>低</u> ・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)		池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	<u>乾</u> ・適・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	5×5	= 25 m ²

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	カラスザンショウ	1~2.5	100	2.5
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	クサイチゴ	0~1	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-1	5・5	カラスザンショウ
	3・3	アオモジ
	2・2	アカメガシワ
	2・2	クサギ
	1・2	アラカシ
	1・2	ツブラジイ
	1・2	ヌルデ
	1・1	ノイバラ
	1・1	タラノキ
IV-1	3・3	クサイチゴ
	1・2	ムベ
	1・2	セイタカアワダチソウ
	1・2	コセンダングサ
	1・1	ネムノキ
	1・1	ヨモギ
	1・1	イヌタデ
	1・1	ヒヨドリジョウゴ

[illegible][illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号	Q-35	群落名	水田雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	25m
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)						
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	1×4 = 4 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	メヒシバ	0~0.9	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	メヒシバ
	2・2	ヌカキビ
	1・2	トキンソウ
	1・2	イヌタデ
	1・2	ボントクタデ
	1・2	ハナイバナ
	1・2	マルバツユクサ
	1・1	スズメノトウガラシ (広義)

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-36		群落名		モウソウチク林					
地形	山頂・尾根・(斜面(上・(中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	30m				
群落	高・低・(植材・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	SE	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	10度	
土壌	ポド性・(褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積					
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()										
土湿	乾・(適・湿・過湿		日当	(陽・中陰・陰		風当	強・(中・弱		15×15 = 225 m2		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	モウソウチク	10~20	100	13
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	イヌビワ	0.5~1.5	10	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ホシダ	0~0.5	50	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	3・3	モウソウチク
III-1	2・2	イヌビワ
	2・2	ヤブツバキ
	2・2	ヒサカキ
	1・2	アラカシ
	1・1	ネムノキ
	1・1	ツブラジイ
	1・1	シロダモ
	+	ハクサンボク
	+	ヒメユズリハ
IV-1	3・3	ホシダ
	2・2	フユイチゴ
	2・2	ツワブキ
	2・2	ヒナタイノコズチ
	1・2	ナキリスゲ
	1・2	ジャノヒゲ
	1・2	ベニシダ
	1・2	テイカカズラ
	1・2	ヤブコウジ
	1・1	サルトリイバラ
	1・1	アラカシ
	+	ホルトノキ
	+	クズ

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-37		群落名		路傍・空地雑草群落							
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷							標高	38m				
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-			
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-			
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積							面積					
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()												
土湿	乾・適・湿・過湿		日当		陽・中陰・陰		風当		強・中・弱		3×3 = 9 m2		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	タチスズメノヒエ	0~2	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	タチスズメノヒエ
	3・3	セイタカアワダチソウ
	2・2	クズ
	2・2	ススキ
	2・2	イヌタデ
	2・2	クサイチゴ
	1・2	アメリカイヌホオズキ
	1・2	ヘクソカズラ
	1・2	コセンダングサ
	1・2	カキドオシ
	1・2	ナワシロイチゴ
	1・2	カラスウリ
	1・1	コツブキンエノコロ
	1・1	ヤブガラシ

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-38		群落名		クズ群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	30m		
群落	高・低・植林・亭		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-
土壌	ボド性 褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積						面積			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	乾・適・湿・過湿		日当		陽・中陰・陰		風当		強・中・弱	
								5×5	=	25 m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	クズ	0~1.8	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	クズ
	3・3	セイタカアワダチソウ
	2・2	コセンダングサ
	2・2	タチスズメノヒエ
	1・2	ヒナタイノコズチ
	1・2	ススキ
	1・2	ヨモギ
	1・2	イヌタデ
	1・2	オオアレチノギク
	1・2	シロツメクサ
	1・1	フキ
	1・1	カラムシ
	1・1	ヒメジョオン
	1・1	アレチマツヨイグサ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-39		群落名		水田雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	85m		
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積								面積	5×5 = 25 m2
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)									
土湿	乾・適・湿・過湿		日当		(陽・中陰・陰		風当		強・(中)・弱	

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	イネ	0~0.5	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	イネ
	3・3	イネ科
	1・2	トキンソウ
	1・2	ミゾカクシ
	+・2	クロホシクサ
	+・2	キク科
	+	アメリカタカサブロウ
	+	ヒデリコ
	+	タネツケバナ
	+	ヒナガヤツリ
	+	イボクサ
	+	イヌホタルイ
	+	アゼトウガラシ
	+	ウリクサ
	+	アゼナ
	+	コナギ
	+	コオニタビラコ
	+	イヌビエ
	+	スズメノテッポウ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-40		群落名		常緑果樹園				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	62m			
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	NW
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	14度
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積				
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	陽・ <u>中陰</u> ・陰		風当	強・ <u>中</u> ・弱		5×5	= 25 m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	クロマツ	0~3	60	7.5
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	コハコベ	0~0.4	30	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-1	4・3	クロマツ
IV-1	2・2	コハコベ
	1・2	ヤハズエンドウ
	1・2	ハナイバナ
	+	シロツメクサ
	+	ベニバナボロギク
	+	ヒメジョオン
	+	カタバミ
	+	ウシハコベ
	+	ヒナタイノコズチ
	+	オニタビラコ（広義）
	+	オオイヌノフグリ
	+	アオミズ
	+	ケチヂミザサ
	+	ジャノヒゲ
	+	マメ科

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-41		群落名	水田雑草群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	38m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	-	
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)					3×3	= 9 m2
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱		

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	イネ	0~0.4	30	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	3・3	イネ
	+・2	イネ科
	+	キク科
	+	イヌホタルイ
	+	イヌビエ
	+	ミミナグサ属
	+	タネツケバナ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月6日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-42		群落名	メダケ群落						
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	35m		
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-
土壌	ポド性・褐・赤・黄・黄褐・森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積								面積	5×5 = 25 m2
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰		風当	強・中・弱			

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	メダケ	3~6	90	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ダイコンソウ	0~1	30	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-I	5・5	メダケ
	+	ヘクソカズラ
IV-I	2・3	ダイコンソウ
	1・2	ヒカゲイノコズチ
	1・1	メダケ
	+	イヌビワ
	+	ホシダ
	+	ミツバ
	+	ケチヂミザサ
	+	コブナグサ
	+	ヤブヘビイチゴ
	+	ハエドクソウ
	+	ノイバラ
	+	ウマノミツバ
	+	アオキ
	+	ヤブツバキ
	+	ジャノヒゲ
	+	ハナミョウガ
	+	ヤブハギ
	+	アオミズ
	+	カキドオシ
	+	オオバチドメ
	+	ヤマノイモ
	+	クスノキ
	+	コナスビ
	+	ヨメナ
	+	オヘビイチゴ
	+	ササガヤ
	+	アケビ
	+	ノブドウ
	+	キンミズヒキ
	+	セリ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-44	群落名	クズ群落				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (<u>上</u> ・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	34m
群落	高・低・植林・ <u>草</u>	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	3×3	= 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	クズ	0~1	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	クズ
	2・2	セイタカアワダチソウ
	1・1	ノイバラ
	+・2	ヨモギ
	+	タンキリマメ
	+	アキノノゲシ
	+	ススキ
	+	カラムシ
	+	スイバ
	+	タチスズメノヒエ
	+	オオイヌホオズキ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-45		群落名		ハクサンボクマテバシイ群落			
地形	山頂・ <u>尾根</u> ・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	158m		
群落	(高)・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	E	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上				傾斜	14度	
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()								
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	(<u>陽</u>)・中陰・陰	風当	強・(<u>中</u>)・弱	20×20 = 400 m ²		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マテバシイ	10~18	90	19.4
II	亜高木層	マテバシイ	5~8	30	8
III-1	低木層-1	クロキ	1~4	40	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	テイカカズラ	0~0.6	60	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	4・4	マテバシイ
	2・2	タブノキ
	1・1	ツブラジイ
	+	モチノキ
	+	ハゼノキ
	+	クロキ
	+	テイカカズラ
II	2・3	マテバシイ
	+	ヤブニッケイ
	+	ヤブツバキ
	+	アラカシ
	+	イヌビワ
	+	クロキ
	+	ヤマフジ
III-1	2・3	クロキ
	1・2	マテバシイ
	1・1	イヌビワ
	+	ヒサカキ
	+	モチノキ
	+	テイカカズラ
	+	ツブラジイ
	+	ハクサンボク
	+	トウネズミモチ
	+	ネズミモチ
	+	ヤブニッケイ

階層	被度・群度	種名
IV-1	3・4	ティカカズラ
	+・2	タブノキ
	+・2	ヤブラン
	+	モチノキ
	+	イヌビワ
	+	ヤマフジ
	+	ナギラン
	+	サネカズラ
	+	ハクサンボク
	+	ナガバジャノヒゲ
	+	シロダモ
	+	ヒカゲイノコズチ
	+	クロキ
	+	ヒサカキ
	+	ネズミモチ
	+	アオキ
	+	アカメガシワ
	+	ヤブニツケイ
	+	キツタ
	+	マテバシイ

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-46	群落名	コジイ二次林				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	153m
群落	<u>高</u> ・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	E	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	16度	
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	20×25	= 500 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ツブラジイ	16~20	90	60
II	亜高木層	クロキ	6~10	20	18.9
III-1	低木層-1	クロキ	2~5	60	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	イヌビワ	0~0.8	5	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ツブラジイ
	+	カラスザンショウ
II	1・2	クロキ
	+	タブノキ
	+	テイカカズラ
III-1	2・3	クロキ
	1・2	イヌビワ
	1・2	ネズミモチ
	+	タブノキ
	+	ツブラジイ
	+	ヤブニッケイ
	+	モチノキ
	+	ヤブツバキ
	+	ハクサンボク
	+	ヒサカキ
	+	マテバシイ
	+	カクレミノ
IV-1	+	イヌビワ
	+	ツブラジイ
	+	テイカカズラ
	+	クロキ
	+	ネズミモチ
	+	タブノキ
	+	クロキ
	+	マテバシイ
	+	ヒサカキ
	+	ハマビワ

階層	被度・群度	種名
	+	シロダモ
	+	ハクサンボク
	+	ヤブニッケイ
	+	エゴノキ
	+	キダチニンドウ
	+	ホルトノキ
	+	ジャノヒゲ
	+	ヒカゲイノコズチ

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-47	群落名		マダケ・ハチク林			
地形	山頂・尾根・ ☒ 斜面(上・ ☒ 中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	155m	
群落	高・ ☒ 低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	W
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上				傾斜	10度
土壌	ポド性・ ☒ 褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積		
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()							
土湿	乾・ ☒ 適・湿・過湿		日当	☒ 陽・中陰・陰		風当	強・ ☒ 中・弱	10×10 = 100 m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マダケ	8~10	90	4.4
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	イヌビワ	1~3	20	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ミツバ	0~1	40	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	マダケ
	+	クズ
	+	センニンソウ
	+	カニクサ
	+	キカラスウリ
III-1	1・2	イヌビワ
	+・2	トベラ
	+	マサキ
	+	ヒサカキ
	+	タブノキ
	+	ハゼノキ
	+	ノイバラ
IV-1	2・2	ミツバ
	1・2	ヤブラン
	1・2	キツタ
	+・2	シロダモ
	+	ウマノミツバ
	+	フユイチゴ
	+	ハマビワ
	+	ジャノヒゲ
	+	ミズヒキ
	+	ムサシアブミ
	+	ツルグミ
	+	テイカカズラ
	+	ダイコンソウ
	+	カニクサ
	+	トベラ
	+	ケヤキ
	+	アオキ
	+	ハゼノキ
	+	ナキリスゲ
	+	スイカズラ

階層	被度・群度	種名
	+	タブノキ
	+	ハナミョウガ
	+	ヤブタバコ
	+	ネズミモチ
	+	ヒカゲイノコズチ
	+	マサキ
	+	ヤハズエンドウ
	+	ケチヂミザサ
	+	ムベ

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-48	群落名	畑雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	135m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積 高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)					面積	
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	3×3	= 9 m ²

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	メヒシバ	0~1.2	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	3・3	メヒシバ
	2・3	ハマスゲ
	1・2	オオオナモミ
	1・2	コツブキンエノコロ
	+	コセندگانサ
	+	アメリカタカサブロウ
	+	オオイヌタデ
	+	ザクロソウ
	+	ハシカグサ
	+	トウバナ
		+
+		ツユクサ
+		オランダミミナグサ
+		コメヒシバ
+		イヌタデ
	+	コハコベ
	+	ムラサキカタバミ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-49	群落名		アカメガシワ-カラスザンショウ群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	138m		
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上					傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積							面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()								
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	(陽)・中陰・陰		風当	強・(中)・弱		10×10 = 100 m ²

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	イヌビワ	4~6	80	12.2
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	アオキ	1~3	60	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	フウトウカズラ	0~0.8	60	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	4・4	イヌビワ
	1・2	シロダモ
	1・1	アカメガシワ
	1・1	エノキ
	+	ムベ
	+	アオツツラフジ
	+	サネカズラ
	+	ヘクソカズラ
III-1	3・3	アオキ
	3・2	ノイバラ
	1・1	ナワシログミ
	1・1	アオツツラフジ
	1・1	アケビ
	1・1	ヒサカキ
	+	マサキ
	+	シロダモ
	+	カラスウリ
	+	テイカカズラ
	+	クズ
	+	ミカン科
IV-1	3・3	フウトウカズラ
	1・2	アオキ
	1・1	キツタ
	+	ヤブラン
	+	マサキ
	+	ジャノヒゲ
	+	ダイコンソウ
	+	アカメガシワ
	+	ケチヂミザサ
	+	ミツバ

階層	被度・群度	種名
	+	アケビ
	+	センニンソウ
	+	ヒカゲイノコズチ
	+	シロダモ
	+	ハナミョウガ
	+	テイカカズラ
	+	ボタンヅル
	+	サネカズラ
	+	オクマワラビ
	+	ヘクソカズラ

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市		季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日	
-----	--------	--	----	---	-------	------------	--

コドラート番号	Q-50	群落名	アカメガシワ-カラスザンショウ群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	142m
群落	高・ <u>低</u> ・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	5×5 = 25 m2
土湿	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱		

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	ハゼノキ	2~3.5	80	3.7
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	セイタカアワダチソウ	0~2	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-1	4・4	ハゼノキ
	1・2	ヤマノイモ
	1・1	ネムノキ
	1・1	アカメガシワ
	1・1	クマノミズキ
	1・1	カラスザンショウ
	+	イヌビワ
	+	ムベ
	+	ヘクソカズラ
	+	タンキリマメ
	+	クズ
	+	アオツツラフジ
	+	トベラ
IV-1	2・3	セイタカアワダチソウ
	1・2	クサイチゴ
	1・1	テイカカズラ
	1・1	ススキ
	1・1	ネズミモチ
	+	カクレミノ
	+	シロダモ
	+	タンキリマメ
	+	ナツフジ
	+	ヤブラン
	+	ヘクソカズラ
	+	アカメガシワ
	+	ノイバラ
	+	クチナシ
	+	サネカズラ
	+	ツブラジイ
	+	ジャノヒゲ
	+	ヒカゲイノコズチ
	+	キツタ
	+	ハゼノキ

階層	被度・群度	種名
	+	スイカズラ
	+	ネムノキ
	+	ヨモギ
	+	クズ
	+	ヤマノイモ
	+	ヒサカキ
	+	ナワシログミ
	+	カマツカ

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-51		群落名		コジイ二次林					
地形	山頂・尾根(斜面)上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	140m				
群落	(高)・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	E	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	35度	
土壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積					
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()										
土湿	乾・(適)・湿・過湿		日当	(陽)・中陰・陰		風当	強・(中)・弱		20×20 = 400 m2		

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ツブラジイ	18~20	90	45.5
II	亜高木層	クロキ	6~10	40	14.8
III-1	低木層-1	ヤブツバキ	2~5	40	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ツブラジイ	0~1	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ツブラジイ
	1・1	ヤブニッケイ
	+	カラスザンショウ
II	2・3	クロキ
	1・2	ツブラジイ
	+	ハゼノキ
	+	ヤブツバキ
	+	クロガネモチ
	+	オガタマノキ
III-1	2・3	ヤブツバキ
	2・2	クロキ
	+	ツブラジイ
	+	ヤマモガシ
	+	ヒサカキ
	+	クロガネモチ
	+	キダチニンドウ
	+	イヌマキ
	+	モチノキ
	+	ホルトノキ
IV-1	1・2	ツブラジイ
	+	クロキ
	+	ヒサカキ
	+	マデバシイ
	+	ヤブツバキ

階層	被度・群度	種名
	+	カクレミノ
	+	アオキ
	+	テイカカズラ
	+	マルバベニシダ
	+	キダチニンドウ
	+	タブノキ
	+	イヌマキ
	+	モチノキ
	+	オオカグマ
	+	イヌビワ

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月7日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-52		群落名		クヌギ植林						
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> ・上・中・下・凸・凹・台地・扇状地・平地・谷							標高	152m			
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草			海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	E	
	路・水田・畑・堤			砂・岩・樹上						傾斜	26度	
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積							面積				
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()											
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿			日当		<u>陽</u> ・中陰・陰		風当		強・ <u>中</u> ・弱		
										10×10	=	100 m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	クヌギ	5~8	80	11.4
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	フユイチゴ	0~0.6	60	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-I	5・5	クヌギ
IV-I	3・3	フユイチゴ
	1・2	フモトシダ
	1・2	コハシゴシダ
	+・2	クサギ
	+	ハナミョウガ
	+	ツルコウゾ
	+	ヘクソカズラ
	+	イワヒメワラビ
	+	クサイチゴ
	+	イヌビワ
	+	ジャノヒゲ
	+	ベニシダ
	+	スイカズラ
	+	ミゾシダ
	+	ススキ
	+	セイタカアワダチソウ
	+	ヒサカキ
	+	クヌギ
	+	ゴンズイ
	+	アカメガシワ
	+	ネムノキ
	+	ハゼノキ
	+	シオデ
	+	ヤブムラサキ
	+	ツワブキ
	+	テイカカズラ
	+	カニクサ
	+	サネカズラ
	+	ヨモギ
	+	サルトリイバラ

階層	被度・群度	種名
	+	ヒヨドリバナ（広義）
	+	ヤワラシダ
	+	ヤブラン
	+	エノキ
	+	ヤブツバキ
	+	クロキ
	+	ナキリスゲ

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-53		群落名	水田雑草群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	1m
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)						
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	3×3 = 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	イネ	0~0.4	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	イネ
	2・3	イヌビエ
	1・2	コゴメガヤツリ
	+・2	イネ科
	+	ノミノツヅリ
	+	アメリカタカサブロウ
	+	ミズユキノシタ
	+	タマガヤツリ
	+	コナギ
	+	アゼトウガラシ
	+	チョウジタデ
	+	トキンソウ
	+	ホソバヒメミソハギ
	+	アゼガヤ
	+	タウコギ
	+	ヒメミソハギ
	+	ヤナギタデ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-54	群落名	ダンチク群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	9m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	5×5	= 25 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ダンチク	0~6	95	-
IV-2	草本層-2				-

[illegible][illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-55		群落名		放棄水田雑草群落								
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷							標高	79m					
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-				
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-				
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積							面積						
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)													
土湿	乾・適・湿・過湿		日当		陽・中陰・陰		風当		強・中・弱		3×3	=	9	m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	セイタカアワダチソウ	0~1.5	95	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	セイタカアワダチソウ
	2・3	カラムシ
	2・1	ススキ
	1・2	クズ
	1・1	ヤブマオ
	1・1	セリ
	+	ノイバラ
	+	カナムグラ
	+	ヒガンバナ
	+	ヤブマメ
	+	ナワシロイチゴ
	+	スイカズラ
	+	ヨメナ
	+	センニンソウ
	+	ホシダ
	+	ギシギシ
	+	イヌタデ
	+	ウシハコベ
	+	ボタンヅル

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-56	群落名	マダケ・ハチク林				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	40m
群落	高・ <u>低</u> ・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-	
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・ <u>褐</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	1×10 = 10 m ²
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マダケ		90	4.3
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	ハマビワ	2~3	10	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	シャク	0~0.5	30	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	マダケ
	+	クズ
	+	ハマビワ
III-1	1・2	ハマビワ
	+	ホルトノキ
	+	イヌビワ
	+	マダケ
	+	ヘクソカズラ
	+	ヤマノイモ
	+	クマノミズキ
	+	ヒサカキ
	+	タブノキ
	+	ムクノキ
IV-1	1・2	シャク
	1・2	キツタ
	+・2	ハマビワ
	+・2	シロダモ
	+	ヤブニッケイ
	+	ヒカゲイノコズチ
	+	ミツバ
	+	タブノキ
	+	ヤブラン
	+	ノブドウ
	+	ツルウメモドキ
	+	クズ
	+	サネカズラ
	+	カラムシ
	+	イヌビワ
	+	エノキ
	+	ウマノミツバ

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-57	群落名	ハクサンボクマテバシイ群落			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷				標高	42m
群落	(高)・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	NE
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	12度
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積 高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()				面積	20×20 = 400 m ²
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	(陽)・中陰・陰	風当	強・(中)・弱	

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マテバシイ	12~15	90	13.5
II	亜高木層	クロキ	10~12	1	7.8
III-1	低木層-1	クロキ	2~6	30	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ヒサカキ	0~1.5	30	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	マテバシイ
II	+	クロキ
III-1	3・3	クロキ
	+	マテバシイ
	+	ヒサカキ
	+	タブノキ
	+	ヤブツバキ
	+	モチノキ
IV-1	2・3	ヒサカキ
	1・2	マテバシイ
	1・2	クロキ
	+	タブノキ
	+	イヌビワ
	+	ヤブニッケイ
	+	シロダモ
	+	ベニシダ
	+	テイカカズラ
	+	カゴノキ

[illegible][illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-58	群落名	畑雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	21m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)		池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積 高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)					面積	
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	3×3	= 9 m ²

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	コメヒシバ	0~0.3	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	コメヒシバ
	1・2	ナズナ
	1・1	コハコベ
	+	ノゲシ
	+	ホトケノザ
	+	ジャニンジン
	+	ヒメジョオン
	+	オランダミミナグサ
	+	ミヤコグサ
	+	アメリカフウロ
	+	スカシタゴボウ
	+	ハマダイコン
	+	コマツヨイグサ
	+	オヒシバ
	+	エノコログサ
	+	ヒメイヌビエ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月8日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-59	群落名		コジイ二次林			
地形	山頂・尾根・(斜面(上・(中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷				標高	155m		
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		方位	NW
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上				傾斜	16度
土壌	ポド性・(褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積				面積			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()							
土湿	乾・(適)・湿・過湿		日当	(陽)・中陰・陰	風当	強・(中)・弱	15×25	= 375 m2

階層構造	優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I 高木層	ツブラジイ	15~18	90	32.3
II 亜高木層	タブノキ	8~12	10	15.5
III-1 低木層-1	クロキ	2~6	60	
III-2 低木層-2				
IV-1 草本層-1	ヒサカキ	0~1	30	-
IV-2 草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	4・4	ツブラジイ
	1・1	タブノキ
	1・1	マテバシイ
	+	センダングサ
	+	カラスザンショウ
	+	ハゼノキ
II	1・1	タブノキ
	+	シロダモ
	+	マテバシイ
	+	ネズミモチ
	+	テイカカズラ
III-1	3・3	クロキ
	1・2	イヌビワ
	1・2	モチノキ
	+	シロダモ
	+	カクレミノ
	+	ツブラジイ
	+	タブノキ
	+	カゴノキ
	+	マテバシイ
	+	ネズミモチ
	+	ヒサカキ
	+	ハクサンボク
IV-1	2・2	ヒサカキ
	1・2	ツブラジイ
	+	テイカカズラ
	+	ベニシダ
	+	クチナシ

階層	被度・群度	種名
	+	シロダモ
	+	マルバベニシダ
	+	モチノキ
	+	ジャノヒゲ
	+	ヤブニッケイ
	+	オオカグマ
	+	カゴノキ
	+	ネズミモチ
	+	ハマビワ
	+	ホルトノキ
	+	サルトリイバラ

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-60	群落名	ダンチク群落				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・中・ <u>下</u> ・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	21m
群落	高・低・植林・ <u>草</u>		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝 <u>グライ</u> ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()					5×5	= 25 m2
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ダンチク	0~6	95	-
IV-2	草本層-2				-

[illegible]

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-61	群落名	クズ群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地(陽)平地・谷					標高	14m
群落	高・低・植林・(草)		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)						
土湿	乾・(適)・湿・過湿		日当	(陽)・中陰・陰	風当	強・(中)・弱	3×3 = 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	クズ	0~1.3	95	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	クズ
	2・3	ノイバラ
	1・2	セイタカアワダチソウ
	+	ヤマノイモ
	+	ヤブガラシ
	+	ヒナタイノコズチ
	+	シロダモ
	+	アキノノゲシ
	+	カナムグラ
	+	ナワシロイチゴ
	+	ホシダ
	+	サネカズラ
	+	カラムシ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-62		群落名	放棄水田雑草群落			
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	15m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)						
土湿	乾・適・過湿	日当	(陽・中陰・陰)		風当	強・中・弱	3×3 = 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ミゾソバ	0~0.7	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	ミゾソバ
	2・2	セリ
	1・2	イ
	1・2	コウガイゼキショウ
	1・1	イヌビエ
	+	アゼナルコ
	+	キンエノコロ
	+	ヒメクグ
	+	オオヂシバリ
	+	ヤハズエンドウ
	+	コセンダングサ
	+	イボクサ
	+	ヨモギ
	+	セイタカアワダチソウ
	+	チョウジタデ
	+	ヤナギタデ
	+	コメヒシバ
	+	コブナグサ
	+	アシボソ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号		Q-63		群落名		ハクサンボク-マテバシイ群落				
地形	山頂・(尾根)・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	138m			
群落	(高)・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	W
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	14度
土壌	ポド性 (褐森)・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積				
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()									
土湿	乾・(適)・湿・過湿		日当	(陽)・中陰・陰	風当	強・(中)・弱	15×20 = 300 m2			

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	マテバシイ	10~15	90	9.8
II	亜高木層	マテバシイ	5~8	20	7.4
III-1	低木層-1	クロキ	2~4	40	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ヒサカキ	0~1	10	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	4・4	マテバシイ
	2・2	ツブラジイ
	1・2	ヤマザクラ
	1・1	クリ
	+	ハゼノキ
	+	クロキ
II	2・3	マテバシイ
	+	アラカシ
	+	タブノキ
III-1	2・3	クロキ
	1・2	ネズミモチ
	1・2	モチノキ
	1・1	ヒサカキ
	+	カクレミノ
	+	マテバシイ
IV-1	1・2	ヒサカキ
	1・2	ネズミモチ
	+	ハゼノキ
	+	カクレミノ
	+	クロキ
	+	タブノキ
	+	モチノキ
	+	アラカシ
	+	ハクサンボク
	+	ヤブツバキ

階層	被度・群度	種名
	+	ツブラジイ
	+	マテバシイ

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-64	群落名	畑雑草群落				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	120m
群落	高・低・植林(草)		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	-
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上				傾斜
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	1×3 = 3 m2
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他(壤土)						
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	陽・中陰・陰	風当	強・中・弱	

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	コメヒシバ	0~0.7	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	コメヒシバ
	2・3	アキノエノコログサ
	1・2	イヌビエ
	+	ヒメムカシヨモギ
	+	ボタンヅル
	+	コセンダングサ
	+	ヤハズエンドウ
	+	ヤブジラミ属
	+	ノゲシ
	+	メヒシバ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-65	群落名	コジニ次林			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> ・上・中・下・凸・凹・台地・扇状地・平地・谷				標高	133m
群落	<u>高</u> ・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	SE
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	30度
土壌	ポド性 <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積 高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()				面積	
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	20×20 = 400 m ²

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ツブラジイ	12~16	90	48
II	亜高木層	アラカシ	5~8	60	8.8
III-1	低木層-1	ヤブツバキ	1.5~4	30	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	テイカカズラ	0~1.5	20	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	3・3	ツブラジイ
	2・3	カラスザンショウ
	2・3	タブノキ
	+	テイカカズラ
	+	ハゼノキ
	+	ムクノキ
II	3・3	アラカシ
	1・2	イヌビワ
	1・2	カゴノキ
	1・1	シロダモ
	+	カラスザンショウ
	+	テイカカズラ
	+	ツブラジイ
	+	ヤブニッケイ
	+	ウラジロガシ
III-1	2・3	ヤブツバキ
	1・1	アオキ
	+	タブノキ
	+	ヤブニッケイ
	+	ヒサカキ
	+	アラカシ
	+	ヤブニッケイ
	+	イヌビワ
	+	カゴノキ
	+	クチナシ
IV-1	1・2	テイカカズラ
	1・2	ヤブツバキ
	+	ハマビワ
	+	イヌビワ
	+	ツブラジイ

階層	被度・群度	種名
	+	クスドイゲ
	+	ヤブニツケイ
	+	シロダモ
	+	アラカシ
	+	マルバベニシダ
	+	ムラサキシキブ
	+	ナガバジャノヒゲ
	+	アオキ
	+	ツルウメモドキ
	+	ヤブラン

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-66	群落名	タブノキ-ヤブニッケイ二次林				
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷				標高	144m	
群落	<u>高</u> ・低・植林・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	E
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	32度
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿	日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	15×20	= 300 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	タブノキ	12~18	80	39.3
II	亜高木層	イヌビワ	8~10	30	8.6
III-1	低木層-1	ネズミモチ	2~5	70	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	イヌビワ	0~1	20	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	3・3	タブノキ
	2・1	バクチノキ
	1・1	カラスザンショウ
	1・1	クスノキ
	+	ハゼノキ
II	2・2	イヌビワ
	1・2	マテバシイ
	1・2	バクチノキ
	+	クマノミズキ
III-1	3・3	ネズミモチ
	2・2	イヌビワ
	1・2	ヒサカキ
	+	ハマビワ
	+	アラカシ
	+	シロダモ
	+	テイカカズラ
	+	クロガネモチ
	+	ハゼノキ
	+	マテバシイ
	+	アオキ
	+	ムラサキシキブ
	+	ヤブツバキ
	+	ナナミノキ
IV-1	1・2	イヌビワ
	1・2	ツワブキ
	1・2	テイカカズラ
	+	ツルコウゾ
	+	ヤブニッケイ
	+	ネズミモチ
	+	ジャノヒゲ
	+	マルバベニシダ
	+	シュンラン
	+	タブノキ

階層	被度・群度	種名
	+	アカメガシワ
	+	フユイチゴ
	+	フモトシダ
	+	シロダモ
	+	イヌガヤ
	+	オニヤブソテツ
	+	バクチノキ
	+	アオキ
	+	ヤブラン
	+	フウトウカズラ
	+	キツタ
	+	クチナシ
	+	イズセンリョウ
	+	ヤブツバキ
	+	イノデモドキ
	+	マツザカシダ
	+	ムサシアブミ
	+	イタビカズラ
	+	クスノキ

階層	被度・群度	種名

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市		季節	秋	調査年月日	平成29年11月9日	
-----	--------	--	----	---	-------	------------	--

コドラート番号	Q-67	群落名	タブノキ-ヤブニッケイ二次林			
地形	山頂・尾根・ ☒ 斜面(上・ ☒ 中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷				標高	84m
群落	☒ 高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	E
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上			傾斜	23度
土壌	ポド性・ ☒ 褐・赤・黄・黄褐・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積				面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()					
土湿	乾・ ☒ 適・湿・過湿	日当	☒ 陽・中陰・陰	風当	強・ ☒ 中・弱	15×25 = 375 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	シロダモ	10~15	80	42.5
II	亜高木層	イヌビワ	6~8	20	12.5
III-1	低木層-1	イヌビワ	1.5~4	70	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	フウトウカズラ	0~1	70	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	3・3	シロダモ
	2・3	タブノキ
	2・2	カラスザンショウ
	+	ハゼノキ
II	1・2	イヌビワ
	1・1	シロダモ
	1・1	アカメガシワ
	+	ハマビワ
	+	テイカカズラ
III-1	3・3	イヌビワ
	1・2	ヤブツバキ
	1・2	ネズミモチ
	+	ハマビワ
	+	マテバシイ
	+	シロダモ
	+	ヤブニッケイ
	+	クスドイゲ
	+	ホルトノキ
	+	ヒサカキ
	+	メダケ
	+	イヌガヤ
	+	ビワ
	+	テイカカズラ
IV-1	3・3	フウトウカズラ
	2・2	テイカカズラ
	1・2	ホシダ
	1・2	ツワブキ
	1・1	フモトシダ
	+	キツタ
	+	マテバシイ
	+	タブノキ
	+	ヤブラン
	+	オニヤブソテツ

階層	被度・群度	種名
	+	マルバベニシダ
	+	ジャノヒゲ
	+	ヤブニッケイ
	+	シロダモ
	+	ネズミモチ
	+	ホルトノキ
	+	タブノキ
	+	ムベ
	+	サネカズラ
	+	ヤブツバキ
	+	クスノキ
	+	バクチノキ
	+	シャク
	+	フデリンドウ
	+	アカメガシワ
	+	ヤブコウジ
	+	ムサシアブミ
	+	ミツバ

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-68		群落名		メダケ群落			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	20m		
群落	高・ <u>低</u> ・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	SE	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上				傾斜	14度	
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()								
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰		風当	強・ <u>中</u> ・弱		5×5 = 25 m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	メダケ	2~5	90	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ホシダ	0~0.6	70	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
III-1	5・5	メダケ
	1・1	イヌビワ
	+	テイカカズラ
	+	クズ
	+	ヘクソカズラ
	+	ハゼノキ
IV-1	3・3	ホシダ
	2・2	テイカカズラ
	1・2	シャク
	1・2	クサイチゴ
	1・2	フウトウカズラ
	+	スイバ
	+	ハスノハカズラ
	+	ミズヒキ
	+	ヒメウズ
	+	スギナ
	+	クズ
	+	マンリョウ
	+	ナワシロイチゴ
	+	ヘクソカズラ
	+	ジャノヒゲ
	+	ヒカゲイノコズチ
	+	ノイバラ
	+	カラムシ
	+	カラスウリ
	+	シロダモ
	+	アオツヅラフジ
	+	ミゾシダ
	+	キツタ
	+	ヤブガラシ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-69		群落名		ダンチク群落					
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷						標高	91m			
群落	高・低・植林・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	-	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	-	
土壌	ポド性・褐・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積						面積				
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						5×5 = 25 m2				
土湿	乾・適・湿・過湿		日当	(陽・中陰・陰)		風当			強・(中)・弱		

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ダンチク	0~8	95	-
IV-2	草本層-2				-

[illegible][illegible][illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号	Q-71	群落名	クズ群落				
地形	山頂・尾根・ 斜面 ・ 上 ・中・下・凸・凹・台地・扇状地・平地・谷					標高	139m
群落	高・低・植林・ 草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	E
	路・水田・畑・ 堤		砂・岩・樹上			傾斜	20度
土壌	ポド性・ 褐 ・赤・黄・黄褐・森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ 適 ・湿・過湿		日当	陽 ・中陰・陰	風当	強・ 中 ・弱	3×3 = 9 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	クズ	0~1.2	95	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	4・4	クズ
	3・3	セイタカアワダチソウ
	+	クサギ
	+	アキノエノコログサ
	+	キンミズヒキ
	+	ススキ
	+	クサイチゴ
	+	カタバミ
	+	ヤマノイモ
	+	ヨモギ
	+	ヒカゲイノコズチ
	+	ヘクソカズラ
	+	ヒメウズ
	+	ヤハズエンドウ

階層	被度・群度	種名

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-72		群落名		チガヤ-ススキ群落			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	121m		
群落	高・低・植林・ <u>草</u>		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	E	
	路・水田・畑・ <u>堤</u>		砂・岩・樹上				傾斜	18度	
土壌	ポド性・ <u>褐</u> 森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積			
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()					3×3 = 9 m2			
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰			風当	強・ <u>中</u> ・弱	

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	チガヤ	0~1	90	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
IV-1	5・5	チガヤ
	1・2	ホシダ
	1・2	ホラシノブ
	1・1	ススキ
	+	セイタカアワダチソウ
	+	ゼンマイ
	+	オトギリソウ
	+	クズ
	+	カラムシ
	+	ネムノキ
	+	ヒヨドリバナ（広義）
	+	オッタチカタバミ
	+	マツヨイグサ
	+	キツネノボタン
	+	キジムシロ
	+	オカトラノオ
	+	ノアザミ
	+	サルトリイバラ
	+	ツボクサ
	+	ヤマノイモ
	+	テйкаカズラ

階層	被度・群度	種名

[illegible]

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号		Q-73		群落名		スギ・ヒノキ植林					
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> ・上・中・下・凸・凹・台地・扇状地・平地・谷						標高	167m			
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)		湿原・河(岸・中)		池(岸・中)		方位	SW	
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上						傾斜	8度	
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積						面積				
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()										
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当		<u>陽</u> ・中陰・陰		風当		強・ <u>中</u> ・弱		20×20 = 400 m2

階層構造		優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	ヒノキ	18~20	90	30.6
II	亜高木層				
III-1	低木層-1	イヌビワ	1~3	30	
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ヒサカキ	0~0.8	40	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・5	ヒノキ
III-1	1・2	イヌビワ
	1・1	ハマクサギ
	1・1	ムラサキシキブ
	1・1	モチノキ
	+	シロダモ
	+	タブノキ
	+	ツルグミ
	+	マテバシイ
	+	イズセンリョウ
	+	ハクサンボク
	+	クロキ
	+	ツブラジイ
	+	アラカシ
	+	ヤブツバキ
IV-1	2・3	ヒサカキ
	1・2	クロキ
	1・1	タブノキ
	1・1	モチノキ
	+・2	ナガバジャノヒゲ
	+	ツルグミ
	+	ツブラジイ
	+	ムラサキシキブ
	+	イヌビワ
	+	ムベ
	+	テイカカズラ
	+	シロダモ
	+	サネカズラ
	+	フモトシダ
	+	ベニシダ

階層	被度・群度	種名
	+	ハマクサギ
	+	ハナミョウガ
	+	オオカグマ
	+	マルバベニシダ
	+	フユイチゴ
	+	ネズミモチ
	+	ヤブニッケイ
	+	ハゼノキ
	+	キダチニンドウ
	+	ヤブムラサキ
	+	アラカシ
	+	クロガネモチ
	+	ナナミノキ
	+	ヤブラン

[illegible]

群落組成調査票

調査地	佐賀県唐津市	季節	秋	調査年月日	平成29年11月10日
-----	--------	----	---	-------	-------------

コドラート番号	Q-74		群落名	クヌギ植林			
地形	山頂・尾根・ <u>斜面</u> (上・ <u>中</u> ・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	166m
群落	高・低・ <u>植林</u> ・草		海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	池(岸・中)	方位	E
	路・水田・畑・堤		砂・岩・樹上			傾斜	5度
土壌	ポド性・ <u>褐森</u> ・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層・水面下・その他()						
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・過湿		日当	<u>陽</u> ・中陰・陰	風当	強・ <u>中</u> ・弱	10×10 = 100 m2

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層	クヌギ	6~9	80	12.5
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	フユイチゴ	0~0.8	80	-
IV-2	草本層-2				-

階層	被度・群度	種名
I	5・4	クヌギ
IV-1	4・3	フユイチゴ
	2・2	ヨモギ
	1・2	セイタカアワダチソウ
	1・2	ダイコンソウ
	1・2	ドクダミ
	1・2	ヒカゲイノコズチ
	1・1	クサギ
	+	ナキリスゲ
	+	ヘクソカズラ
	+	ゲンノショウコ
	+	イネ科
	+	ヤブラン
	+	スミレ属
	+	ハナミョウガ
	+	ヒサカキ
	+	ネムノキ
	+	メヤブマオ
	+	オッタチカタバミ
	+	ミズタマソウ
	+	サネカズラ
	+	ヤマグワ
	+	キンミズヒキ
	+	ノアザミ
	+	ツルコウゾ
	+	キクムグラ
	+	キツネノマゴ
	+	ホシダ
	+	エノキ
	+	ノイバラ
	+	ボタンヅル

階層	被度・群度	種名
	+	ジャノヒゲ
	+	ケチヂミザサ
	+	シラスゲ
	+	ヒメウズ
	+	シロダモ
	+	ミズヒキ
	+	ツボスミレ
	+	テイカカズラ
	+	キヅタ
	+	スイバ
	+	ミツバ

階層	被度・群度	種名

群落組成調查票

調査地	佐賀県唐津市	季節	夏	調査年月日	平成29年7月31日
-----	--------	----	---	-------	------------

コドラート番号	Q-75	群落名	ヒルムシロクラス				
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷					標高	139m
群落	高・低・植林・草	海(岸・浜・中)	湿原・河(岸・中)	(池)(岸)・中		方位	-
	路・水田・畑・堤	砂・岩・樹上				傾斜	-
土壌	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・凝グライ・沼沢・沖積					面積	
	高湿草・非固岩層・固岩層	(水面下・その他())				3×3 = 9 m2	
土湿	乾・適・湿・過湿	日当	(陽)・中陰・陰	風当	強・(中)・弱		

階層構造		優占種	高さ(m)	植被率(%)	胸高直径 (cm)
I	高木層				
II	亜高木層				
III-1	低木層-1				
III-2	低木層-2				
IV-1	草本層-1	ヒシ	0.08	95	-
IV-2	草本層-2				-

[illegible][illegible]

階層	被度・群度	種名